

2024年9月26日

日本教育情報化振興会・ICT CONNECT21 会員交流会



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 令和7年度概算要求について

初等中等教育局 学校情報基盤・教材課長  
寺島 史朗

# 目 次

1. GIGAスクール構想の成果と課題
2. 令和7年度概算要求について
3. (参考) 文部科学省の伴走支援

# 1

## GIGAスクール構想の成果と課題

# 国策としてのGIGAスクール構想の更なる推進

## ① これまでの 成果

### ● 世界に先駆け、わずか1～2年で整備完了

- ✓ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は9割を超え、その割合は年々上昇。
- ✓1人1台端末、無線LAN環境等のデジタル学習基盤が整い、端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムに。



### ● 学力調査等にも効果

- ✓全国学力・学習状況調査において、ICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びに取り組むほど、平均正答率が高い結果。
- ✓約9割の児童生徒が、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」などのICT機器活用の効力感を実感。
- ✓ICT機器の効力感に肯定的に回答した児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等に関して肯定的に回答。また、その傾向は、特に低SES（社会経済的背景）グループにおいて見られる。
- ✓コンピュータ活用型調査（CBT）であるPISA2022において、日本は世界トップレベル。



### ● 誰一人取り残されない学びの保障

- ✓該当者のいる約7割の学校で、授業配信を含め、ICT機器を活用した不登校児童生徒の学習活動等の支援を実施。
- ✓同様に、8割以上の学校で、特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援を実施。



### ● 単なる教育施策ではなく、我が国の重要施策のインフラ

- ✓デジタル人材育成の基盤（端末を活用してプログラミングを学んだ子どもの増加、また、今後のAI戦略にとっても重要）。



### ● 地域・学校間で大きな活用格差

- ✓活用率の自治体間格差（約7割～ほぼ100%）や授業での活用方法に学校間格差があり、早急な是正が必要。



### ● 端末更新、学校のICT環境（ネットワーク）の改善

- ✓端末については、R5補正予算でR7年度までの更新に必要な経費を確保。一方、各自治体において適切かつ計画的な更新が行われる必要。
- ✓**ネットワークについては、速度が不十分な学校が存在しており、改善が急務（GIGA端末はクラウドの活用を前提とした空の端末（何もインストールされていない）であり、ネットワーク環境がないと十分に活用できない）。**



### ● 校務のDX

- ✓校務支援システムが自前サーバに構築され、校務処理の多くが職員室に限定。また、ネットワークが分離され、学習系データと校務系データの連携が困難。**校務システムのクラウド化及び校務系・学習系ネットワークの統合等による更なる校務DXが必要。**



## ③ 今後の方向性（教育DXの更なる進化）

- 共同調達スキームの下での**着実な端末更新**。
- **ネットワークアセスメントの徹底・その結果を踏まえた通信ネットワークの着実な改善**。
- 地域間活用格差の解消に向けた好事例の創出やICT運用支援を含む**伴走支援の強化**。
- クラウド環境や生成AIの活用等による**教育DXを加速**。



## （教育DX）

こどもたちの学びの更なる充実と教職員の負担軽減に向け、国策として推進するGIGAスクール構想を中心に、クラウド環境や生成AIの活用等による教育DXを加速する。共同調達スキームの下での着実な端末更新、ネットワークアセスメントの徹底やその結果を受けた①通信ネットワークの着実な改善、②地域間格差の解消に向けた好事例の創出や広域的なICT運用支援を含む伴走支援の強化、デジタル教科書等の学習ソフトの活用促進など、ハード・ソフト両面からの教育環境の充実を図る。教師の指導力・児童生徒の情報活用能力の向上や教育情報セキュリティ対策や個人情報保護の強化を図りつつ、教育データの収集・分析・利活用を促進し、実態把握や効果検証等を踏まえながら、学びの個別最適化に向けた取組や、入学・高校入試事務のデジタル化を含む③校務DXの推進に向けた取組等を加速し、先進事例の創出と横展開を図る。

# 2

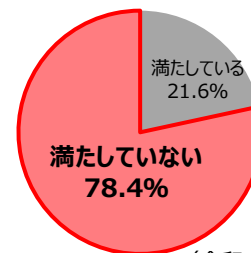
令和7年度概算要求について

①通信ネットワークの着実な改善

## 現状・課題

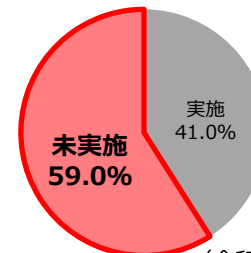
- 1人1台端末の日常的な利活用や、デジタル教科書、CBTの導入が進むなかで、文部科学省は令和6年4月に同時・多数・高頻度での端末活用を想定した「当面の推奨帯域」を設定。
- 一方、この推奨帯域を満たしていない学校は8割となっている。今後、ネットワークアセスメントの徹底やその結果を受けた通信ネットワークの着実な改善を図る必要。
- また、学校における働き方改革や学習系・校務系データの連携、大規模災害等発生時のレジリエンス確保を実現する、クラウド環境・アクセス制御型のセキュリティ対策を前提とした次世代校務DX環境の整備、教育データ利活用の基盤となる情報セキュリティ対策、教職員のICTリテラシーの向上、端末の着実な更新など、GIGAスクール構想第2期を強力に推進するための基盤整備が急務。

当面の推奨帯域を満たす学校の割合



(令和5年度)

ネットワークアセスメント実施状況



(令和5年度)

## 事業内容

### (1) 学校の通信ネットワーク速度の改善

① ネットワークアセスメントの実施、② アセスメントの結果を踏まえたネットワーク環境の改善、③ 回線契約の切り替えに係る初期費用を支援。これにより、通信ネットワークの改善を図る。

- ※ ネットワークアセスメント…学校内外のネットワーク構成要素を評価し、課題の把握・原因箇所の特定を行うこと。
- ※ ②、③の支援対象はネットワークアセスメント実施済学校に限る。
- ※ 校内のネットワーク環境を整備するための工事に要する費用の支援については、別途「学校施設環境改善交付金」において概算要求。

### (2) 次世代校務DX環境の全国的な整備

① 都道府県域での共同調達を前提とした次世代校務DX環境の整備支援

都道府県域での共同調達・帳票統一を前提に、自治体の次世代校務DX環境整備に係る初期費用を支援。

② 都道府県域での次世代校務DX環境整備に向けた準備支援

都道府県域での共同調達を前提に次世代校務DX環境整備を行う際に必要となる帳票統一・ネットワーク環境等に関する都道府県域内の実態調査、ロードマップの策定、RFP作成等の各種プロセスを支援。

### (3) 学校DXのための基盤構築

教育情報セキュリティポリシーの策定/改定支援、セキュリティリスクアセスメント、教職員やICT支援人材のためのICT研修等、学校DXに向けた技術的なコンサルタントに要する経費を支援。

このほか、共同調達スキーム下での着実な端末更新を実施。

<ネットワーク・アセスメントのイメージ>



<次世代校務DXとは>

令和5年3月に文部科学省がとりまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」に方向性を示している、ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方。

#### 補助率等

事業主体：都道府県、市町村

補助割合等：3分の1

補助上限（事業費ベース）：

- (1)：①：1,000千円/校 ②：2,000千円/校 ③：400千円/校
- (2)：①：6,800千円/校 ②：50,000千円/都道府県
- (3)：200千円/校

端末更新については令和5年度補正予算と同等の条件で支援。

# 学校のネットワークの現状について

- 「当面の推奨帯域」は、同時に全ての授業において、多数の児童生徒が高頻度で端末を活用する場合にも、ネットワークを原因とする支障がほぼ生じない水準であり、端末活用の日常化に向けて、まずは全ての学校が目指すべき水準(ただし、この水準を下回る場合でも授業で全く活用できないというものではない)。
- 全校の簡易測定結果と照らし合わせ、一定の仮定の下で推計すると、**当面の推奨帯域を満たす学校は2割程度**。

## 授業での活用場面 (A中学校1限目での活用イメージ)

※「当面の推奨帯域」的环境下では校内でこのような端末活用の同時進行が可能



学校規模別の当面の推奨帯域		簡易測定結果	
児童生徒数	当面の推奨帯域(Mbps)	回答学校数(割合)	当面の推奨帯域を満たす学校数
~60人	~108	3,985校(13.2%)	3,258校(81.8%)
61人~120人	161~216	3,450校(11.5%)	1,486校(43.1%)
121人~180人	270~323	2,798校(9.3%)	520校(18.6%)
181人~245人	377~395	2,705校(9.0%)	306校(11.3%)
246人~315人	408~422	2,901校(9.6%)	201校(6.9%)
316人~385人	437~453	2,817校(9.4%)	215校(7.6%)
386人~455人	468~482	2,515校(8.4%)	131校(5.2%)
456人~560人	496~525	3,023校(10.1%)	174校(5.8%)
561人~700人	538~580	2,785校(9.3%)	127校(4.6%)
701人~840人	594~633	1,728校(5.7%)	56校(3.2%)
841人~	647~	1,382校(4.6%)	29校(2.1%)
<b>合計</b>		<b>30,089校</b>	<b>6,503校(21.6%)</b>

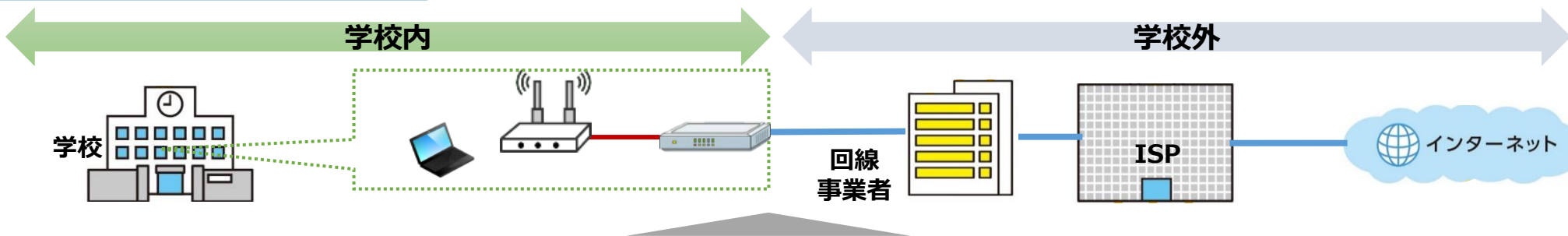


# 学校のネットワークの改善の必要性

## 現状

- GIGAスクール構想が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実には、1人1台端末をつなぐ**高速ネットワークが不可欠**。デジタル教科書の本格導入、全国学力・学習状況調査のCBTへの全面移行は、**高速ネットワークが前提**。
- しかしながら、学校規模ごとに推奨される1校当たりの速度の目安（「**当面の推奨帯域**」）を満たす学校は約**2割**。学校のネットワークが遅い・つながりにくいと感じることがあると答えた割合は**7割超**。この改善が**急務**。
- 文部科学省は、「**必要なネットワーク速度を確保済の学校100%（R7年度）**」との目標を設定。

## 学校のネットワークの課題



### 課題① 不具合の原因特定が不十分（ネットワークアセスメントが必要）

- 学校のネットワークが繋がりにくい原因は、**学校内が原因の場合**と、**学校外が原因の場合**に大別されるが、**具体的には様々であり、その特定が改善の前提**

### 課題② 校内ネットワークに課題がある

- **機器の設定・設置場所**に課題がある、**機器が最新でない**、**相性の悪い機器**が組み合わされている等

### 課題③ 通信契約の内容が十分なものとなっていない

- インターネットに接続するまでの**回線契約が不十分な場合が多い**  
※ 9割超の自治体において、学校のインターネット通信費は、**家庭のインターネットと同程度しか措置されていないと推測される**。

### 課題④ 自治体において専門性ある職員の確保が難しく、交渉力が不足

- **ネットワークアセスメントの発注や、通信契約の変更等について事業者と適切に交渉していくためには、ネットワークについての一定の知識が必要**。教育委員会においては、ネットワーク整備に深い知見を有する職員の確保が難しい場合もある。

# 学校のネットワークの改善に向けた対応

## ネットワークアセスメントによる不具合の特定

### 課題①への対応

- R5補正予算で23億円のネットワークアセスメントの補助事業を計上。
- R7概算要求では、①ネットワークアセスメントに加えて、②アセスメントの結果を踏まえた応急対応（機器の入れ替えや設定変更等）、③回線契約の切り替え（回線敷設や設定等）に係る補助事業を計上（88億円の内数）
  - ✓ 国庫補助割合：1/3、国庫補助対象：①1校100万円、②1校200万円、③1校40万円

## 校内ネットワークの改善

### 課題②への対応

- 校内ネットワーク環境を整備するための工事に要する費用を国庫補助
  - ✓ 国庫補助割合：原則1/3、国庫補助対象：1校400万円以上
- 上述のとおり、R7概算要求では、アセスメント結果を踏まえた機器の入れ替えや設定変更等に係る補助事業を計上



大臣要請の様子（R6.8.29）

## 通信契約の見直し

### 課題③への対応

- 文部科学大臣、総務大臣、デジタル大臣の3大臣連名で、電気通信事業関連4団体に対し、学校規模等に対応した広帯域の通信サービスが適切に選択可能となるよう協力を要請
  - ✓ 要請では、広帯域の通信サービスとして以下を例示：
    - 10Gbpsなどの従前よりも広帯域のベストエフォート型サービス
    - 別系統の設備により提供されるベストエフォート型サービスの複数利用
    - 回線を共有する利用者数が少ないベストエフォート型サービス
    - ギャランティ型のサービス
- 文部科学省はデジタル庁とともに、学校が当面の推奨帯域を満たすための通信サービスのカタログ化の取組を進める予定
- 上述のとおり、R7概算要求では、回線契約の切り替えに係る補助事業を計上
- 通信費については、学校のICT環境整備に係る地方財政措置が講じられている。令和7年度以降の地方財政措置に係る方針を検討した中央教育審議会WGの取りまとめにおいても、学校のネットワークの改善は急務とされている。

## 自治体担当者の専門性向上

### 課題④への対応

- 教育委員会の担当者向けに「学校のネットワーク改善ガイドブック」を提示し、通信契約の見直しの観点など、ネットワークの改善に必要な事項を分かりやすく解説



# 当面の推奨帯域と学校の契約・実効帯域

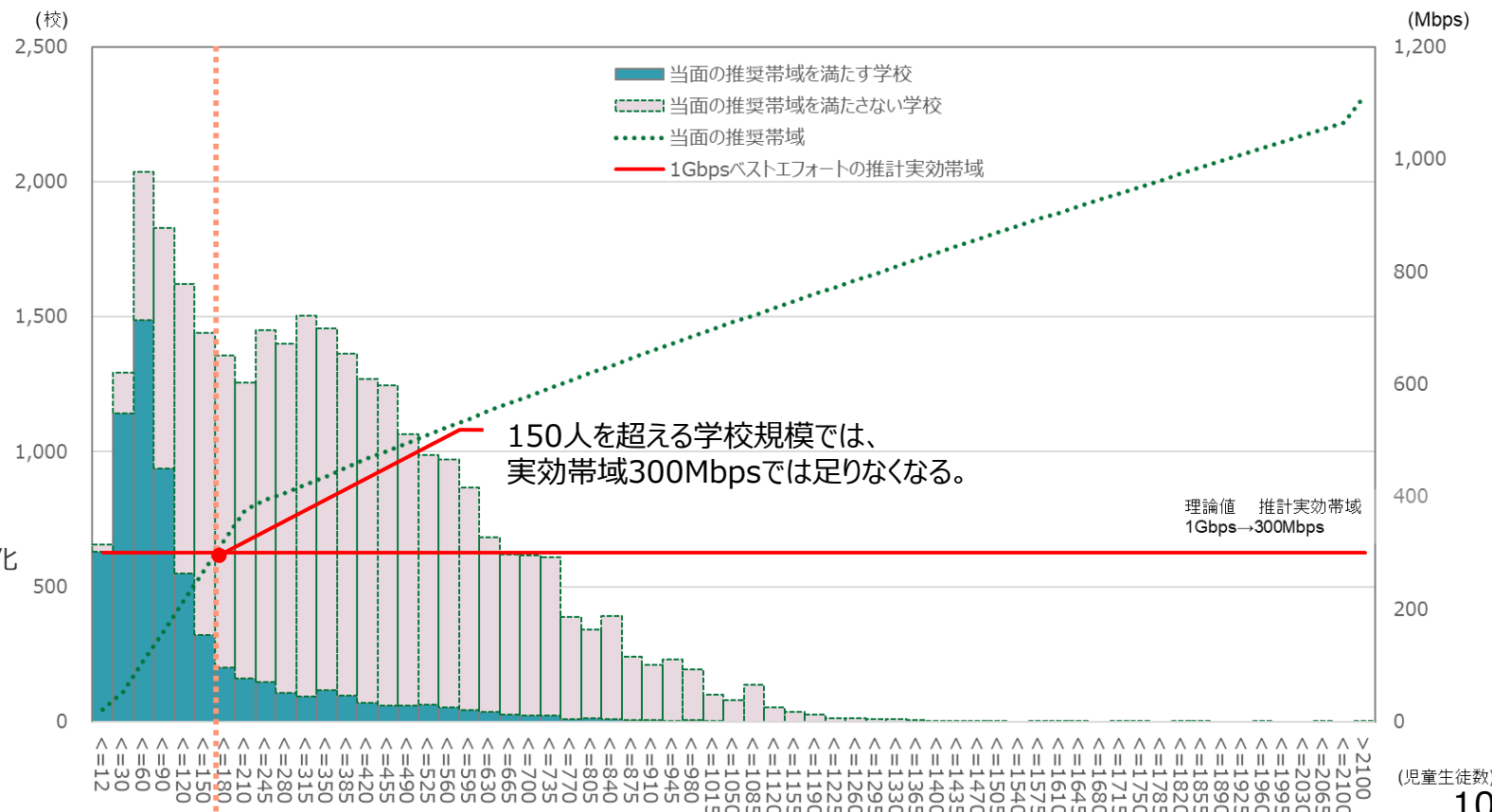
- 「令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の調査結果によると、**2 Gbps未満の契約をしている学校は約95%**。
- また、ベストエフォート回線は、他のユーザと回線を共有するため、実際の回線帯域は込み具合によって変化することから、理論値の3割が実効速度と仮定すると、**1 Gbpsのベストエフォート回線の実効帯域は約300Mbps**となる。
- これらの状況を踏まえると、1 Gbpsベストエフォート回線の契約では、**151人以上の規模の学校においては、「当面の推奨帯域」を満たせる可能性は低くなると考えられる。**

※ 1 Gbpsのベストエフォート型サービスであっても、共有数が少なく、これ以上の実効帯域を期待できるものもある。

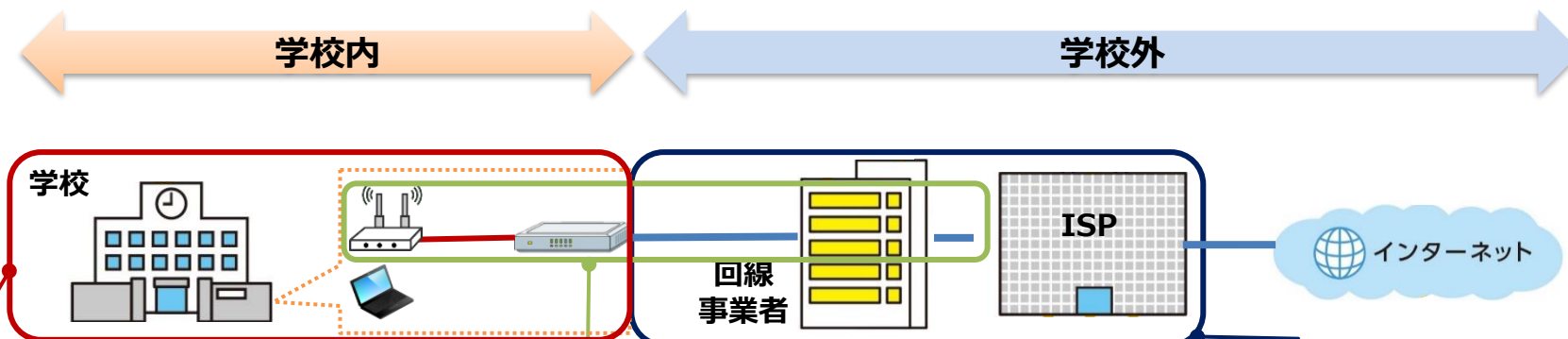
固定回線における学校の接続  
回線速度※

接続回線速度	学校数
1 Gbps未満	10,546校 (33.7%)
1 Gbps以上 2 Gbps未満	19,310校 (61.6%)
2 Gbps以上	1,477校 (4.7%)
合計	31,333校 (100%)

(※)令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査



# 学校のネットワーク改善のための支援制度



## 学校施設環境改善交付金 (大規模改造(教育内容)事業)

### 事業概要

- 校内のネットワーク環境を整備するための工事に要する費用を国庫補助。
- 国庫補助割合：原則 1 / 3
- 国庫補助対象：1校400万円以上
- 補助対象学校種：幼・小・中・特支

※1 ネットワーク整備と他の大規模改造(教育内容)事業を一体的に行う場合には、合算して補助対象事業費の下限額を判定。

※2 Wi-Fiアクセスポイントなどについても、施設の構造体と一体不可分のものとして整備する場合には、補助対象事業費に含むことが可能。

※3 地方負担分については、地方債による財源手当が可能。

担当：文教施設企画・防災部 施設助成課

### 令和7年度概算要求(新規)

## GIGAスクール構想 支援体制整備事業

### 事業概要

- ① ネットワークアセスメントの実施
- ② アセスメントの結果を踏まえた応急対応(機器の入れ替えや設定変更等)
- ③ 回線契約の切り替え(回線の敷設や設定等)

に係る費用を国庫補助。

- 国庫補助割合：1 / 3
- 国庫補助対象：  
① 1校100万円    ② 1校200万円  
③ 1校40万円

○補助対象学校種：小・中・特支・高

担当：初等中等教育局 学校情報基盤・教材課

## インターネット接続費用等

「教育のICT化に向けた環境整備計画」に基づき、毎年度地方財政措置。

### ネットワーク整備の必要性

- ✓ 文部科学省は、令和6年4月に同時・多数・高頻度での端末活用を想定した「当面の推奨帯域」を策定したが、これを満たす学校は2割程度にとどまる。
- ✓ 端末の日常的な利活用や、デジタル教科書、CBTの導入が進むなかで、学校において必要なネットワーク速度は更に高まる見込みであり、改善が急務。
- ✓ 端末の整備・更新に係る国庫補助要件に「ネットワーク整備計画の策定」を設定。

### 教育DXに係る政府KPI(抜粋)

- ✓ ネットワークアセスメント実施済の学校：100% (令和7年度まで)
- ✓ 必要なネットワーク速度を確保済の学校：100% (令和7年度まで)

# 学校のICT環境整備に係る地方財政措置（令和6年度）

- 平成30年に「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（平成30年度～令和4年度）」を策定し、単年度1,805億円の地方財政措置を講じてきたが、新たなICT環境整備方針の策定について、令和7年度に向けて検討を進めることとし、当該計画期間を令和6年度まで2年間延長
- 令和5年度補正予算における、GIGAスクール構想加速化基金の創設に伴い、令和6年度については、基金を活用して自治体が行う児童生徒1人1台端末の整備に必要な経費について、**単年度373億円を地方財政措置** その他、上記を除く**学校ICT環境整備に必要な経費**について、**単年度1,432億円を地方財政措置**

## GIGAスクール構想加速化基金（373億円）

- **学習者用端末** 基金を活用した整備（補助率2/3）の地方負担分（義務教育段階）

## 教育のICT化に向けた環境整備計画（1,432億円）

### 計画において措置されているICT環境の水準

- **学習者用端末** 3クラス分に1クラス分程度整備（高校段階）
- **指導者用端末** 授業を担当する教師1人1台
- **大型提示装置・実物投影機** 100%整備  
各普通教室1台、特別教室用として6台  
（実物投影機は、整備実態を踏まえ、小学校及び特別支援学校に整備）
- **インターネット及び無線LAN** 100%整備
- **統合型校務支援システム** 100%整備
- **ICT支援員** 4校に1人配置
- 上記のほか、学習用ツール<sup>(※)</sup>、予備用学習者用端末、充電保管庫、学習用サーバ、校務用サーバ、校務用端末やセキュリティに関するソフトウェアについても整備

(※) ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどをはじめとする各教科等の学習活動に共通に必要なソフトウェア



# 2

令和7年度概算要求について

- ②地域間格差の解消に向けた好事例の創出を含む伴走支援の強化

## 現状・課題

GIGAスクール構想の下、1人1台端末の更新やネットワークの高速化は各自治体において進められているが、その活用状況については自治体間で格差が生じつつある。今後、全ての学校においてICTを日常的に活用し、ICT環境を基盤として、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めることや新たな技術にも対応した情報モラルを含む情報活用能力を育成することが課題である。

## 事業内容

事業実施期間

平成27年～

## OGIGAスクール構想の加速化事業（伴走支援強化・事例創出）

### 学校DX戦略アドバイザー

- 自治体、学校の要望に応じた各種専門家をアドバイザーとして派遣
- 自治体等の課題と、解決に向けた手立てについて、共通する内容をテーマに研修の実施

#### <課題例>

- 端末を活用した、新たな指導方法のあり方
- 端末を活用した子供の学びのあり方
- 先生にも保護者にも、安心できる持ちかえりのあり方
- 学校での校務DXに向けた取組のあり方
- 自治体におけるネットワーク構成のあり方
- 生成AIを授業に活かす活用のあり方

令和6年度学校DX戦略アドバイザー人数 163人

### リーディングDXスクール

- 指定校における1人1台端末及び高速ネットワーク（クラウド環境）を基盤とした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する事例の創出
- 様々な事例を全国の学校に普及・展開
- 情報活用能力の育成等ICT活用の意義を伝える研修の実施

- <指定校> 全国で100箇所程度

#### 指定校の取組メニュー（例）

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施
- 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等
- 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修



## ○情報モラル教育推進事業

普段から意識すべきことや直面する諸課題（生成AI、ファクトチェックなど）について、児童生徒が自分で考え、解決できる力を身に付けることを目指し、授業で活用できる情報モラルポータルサイトにおける各種コンテンツの充実や情報モラル教育指導者セミナーを開催。

## ○児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究

情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な「情報活用能力」を児童生徒（小5、中2、高2）がどの程度身に付けているかを定期的に測定し、施策の改善等に活用。

令和5年度  
● 予備調査

令和6年度  
● 本調査

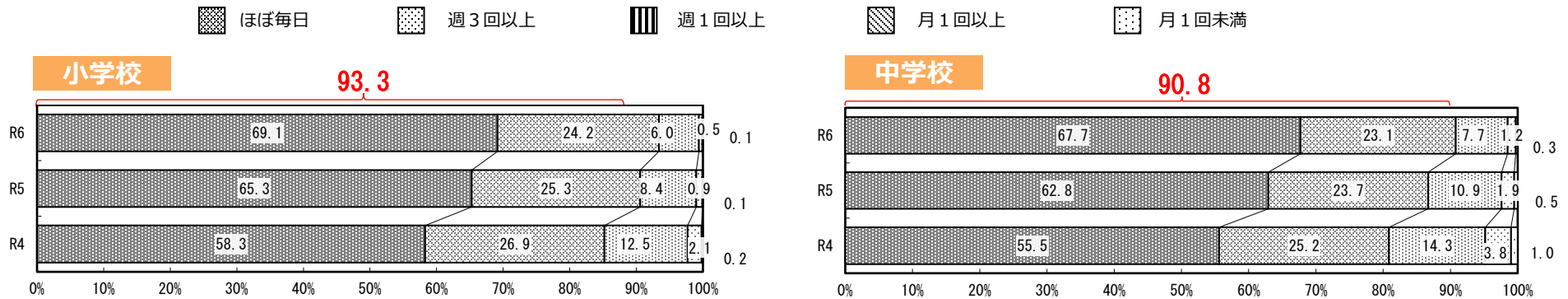
令和7年度  
● 調査報告書の作成と調査結果の公表  
● 次回の調査に向けた新規調査問題開発

# 「授業」、「家庭での利用」とともに、ICTの活用は進んできている

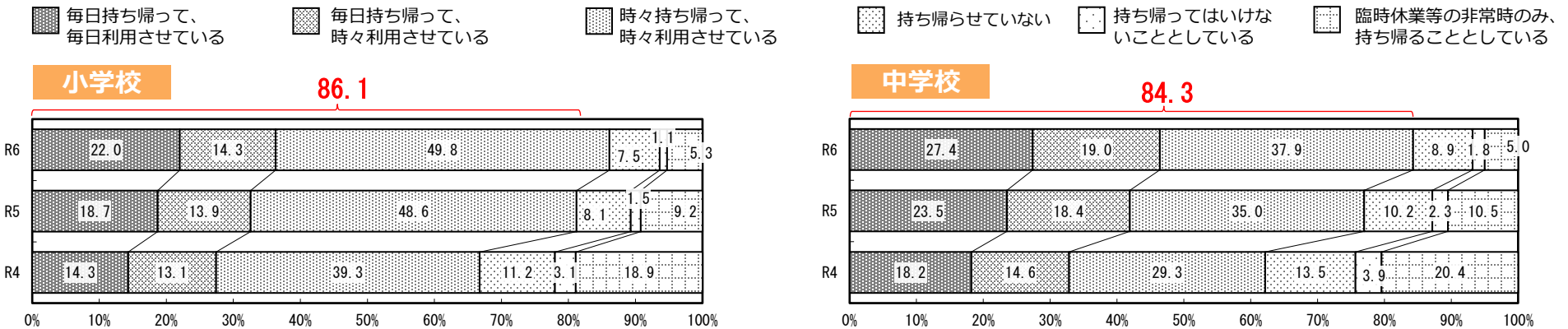
## 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果 ① ICTの活用状況等より

○ ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校93%（前年比3ポイント増）、中学校91%（前年比4ポイント増）。

小学校〔56〕 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授  
中学校〔60〕 業でどの程度活用していますか。



小学校〔64〕 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。  
中学校〔68〕





# ICTの「活用頻度」と各教科の「平均正答率」との関係

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

質問紙調査報告書 参考資料より

ICT活用の単純な「頻度」と平均正答率に直接的な相関は見られない（小・中ともに）

## 小学校

相関係数 児童質問紙－教科  
全国－児童（国・公・私立）

質問番号	質問事項	国語	算数
(27)	5年生までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか	0.065	0.070

## 中学校

相関係数 生徒質問紙－教科  
全国－生徒（国・公・私立）

質問番号	質問事項	国語	数学
(27)	1、2年生のときに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか	0.096	0.098

しかし、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」のキーワードをはさむと・・・

## 「ICT機器の活用」と「主体的・対話的で深い学び」との関係

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答している。
- 課題の解決に向けて自分から取り組んだと考える児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果のポイント（授業改善関係）

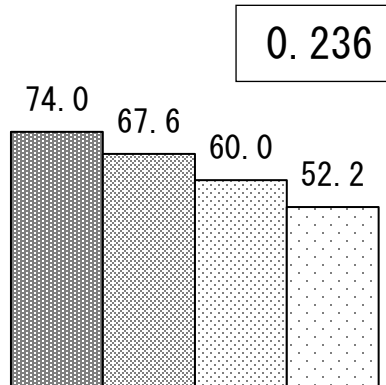
- 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感等が高く、自分で学ぶ方を考え工夫している。

## 児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率

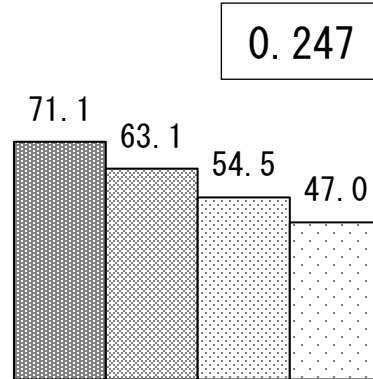
### 課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる  
 どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない

### 小学校国語



### 小学校算数



## 児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と児童生徒質問「自分にはよいところがあると思う」のクロス集計

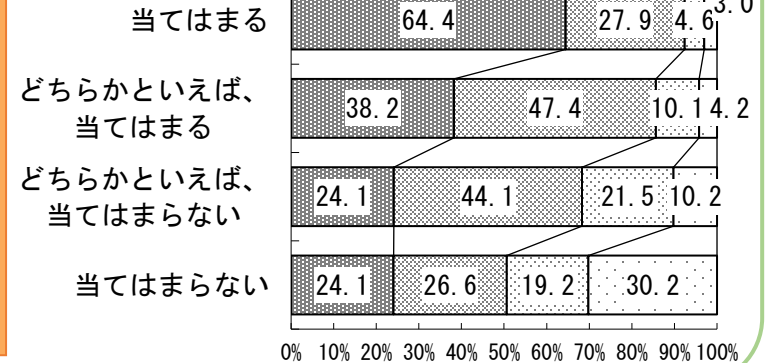
### 小学校

0.313

### 自分には、よいところがあると思う

当てはまる  
 どちらかといえば、当てはまる  
 どちらかといえば、当てはまらない  
 当てはまらない

課題の解決に向けて自分から取り組んだ



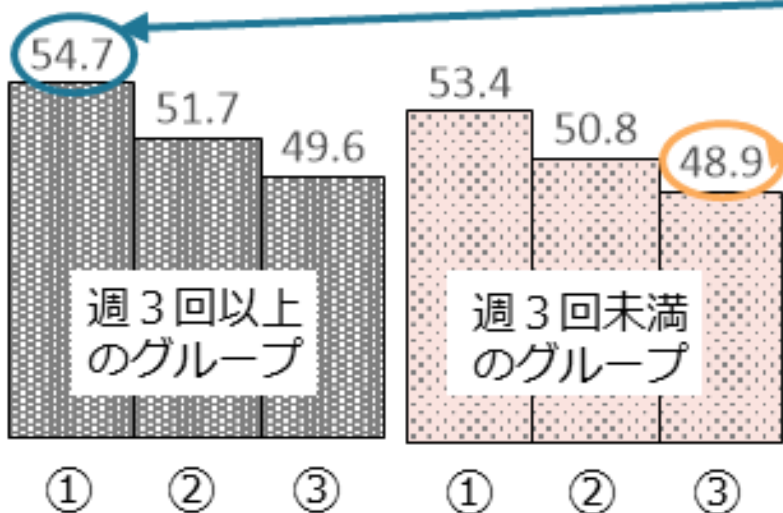
# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果のポイント（授業改善関係）

- 課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外のグループよりも各教科の正答率が高い。

## 課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

### 中学校数学



発表場面でのICT活用頻度が週3回以上で、課題解決の学習活動の質問に「当てはまる」と回答した学校の生徒の平均正答率は**54.7%**。

発表場面でのICT活用頻度が週3回未満で、課題解決の学習活動の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」又は「当てはまらない」と回答した学校の生徒の平均正答率は**48.9%**。

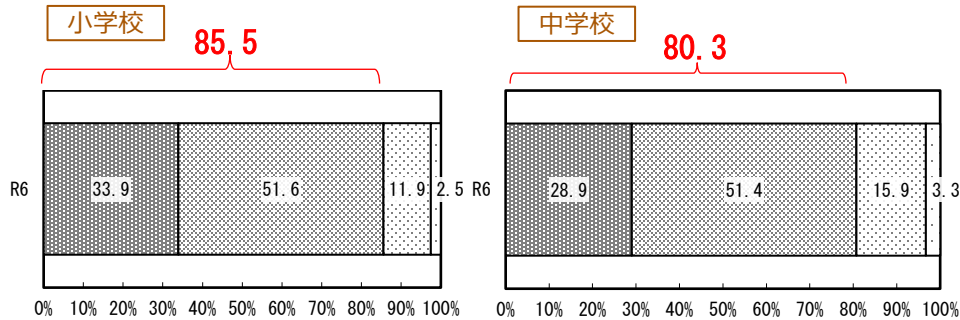
# ICT機器活用の効力感①

- 約9割の児童生徒が、ICT機器は「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくする」と考えている

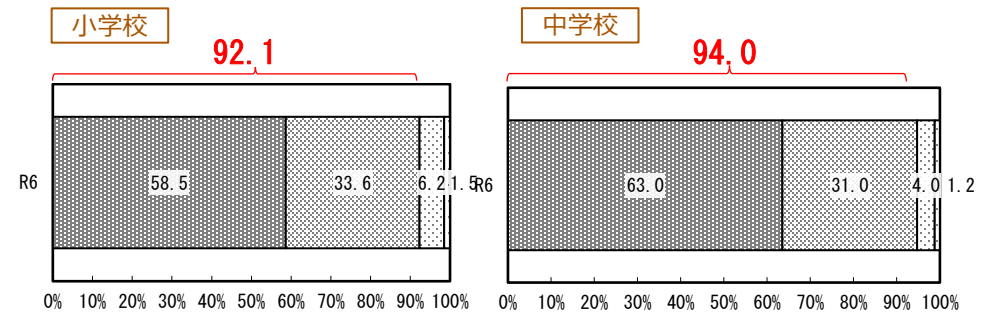
児童〔28〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい  
生徒〔28〕 当てはまりますか。（新規）

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

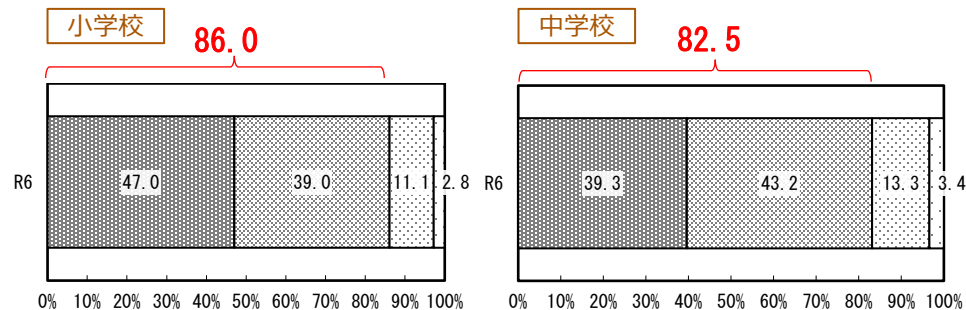
## (1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



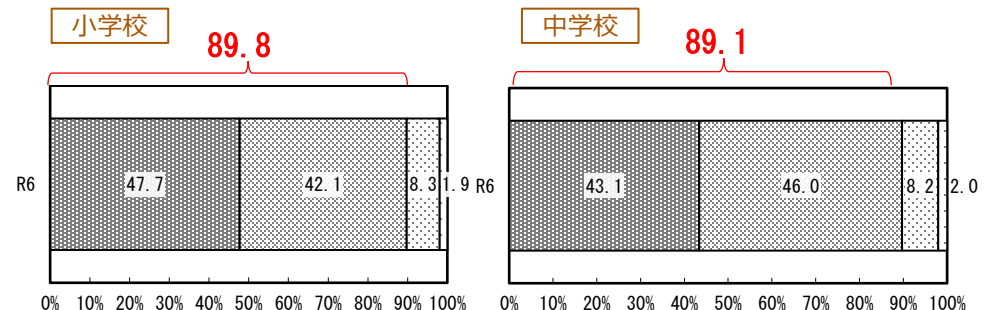
## (2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



## (3) 楽しみながら学習を進めることができる



## (4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



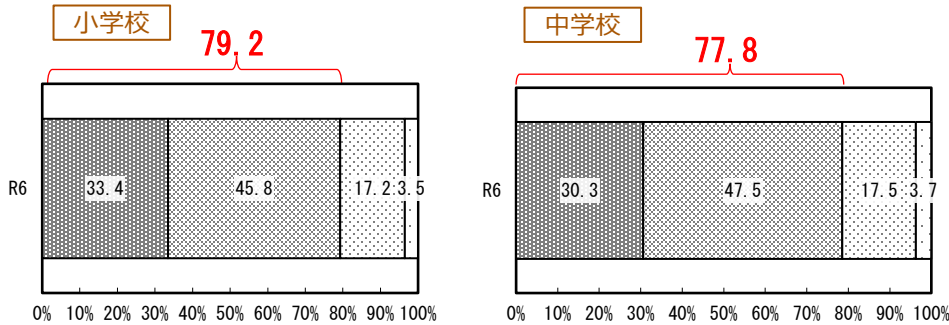
# ICT機器活用の効力感②

- 約9割の児童生徒が、ICT機器は「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくする」と考えている

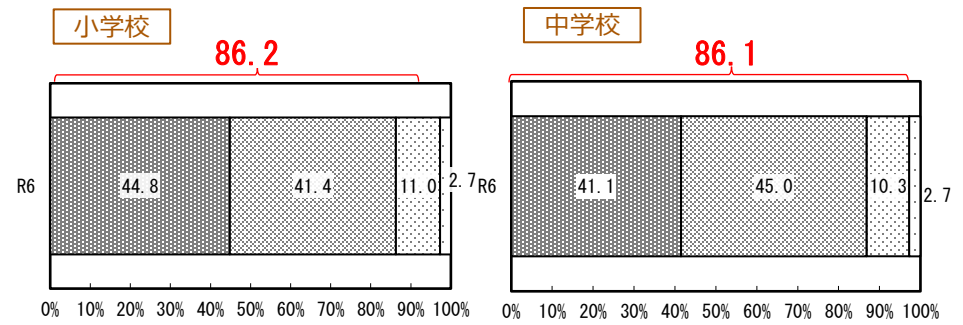
児童〔28〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい  
生徒〔28〕 当てはまりますか。（新規）

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

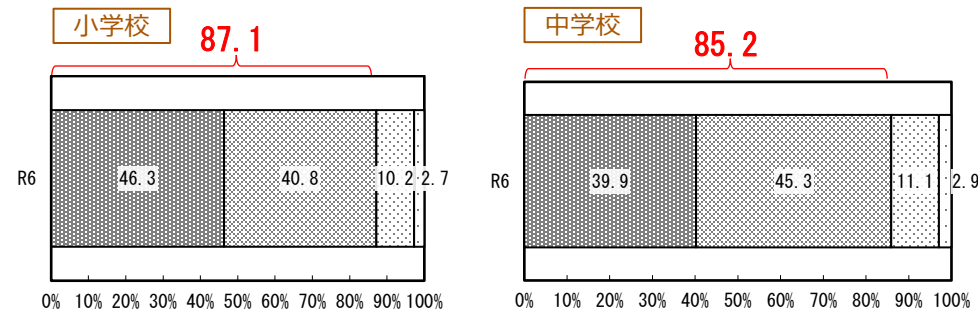
## (5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



## (6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



## (7) 友達と協力しながら学習を進めることができる



# 「主体的・対話的で深い学び」と「ICT機器活用の効力感」との関係

- 主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒ほど、ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答している。

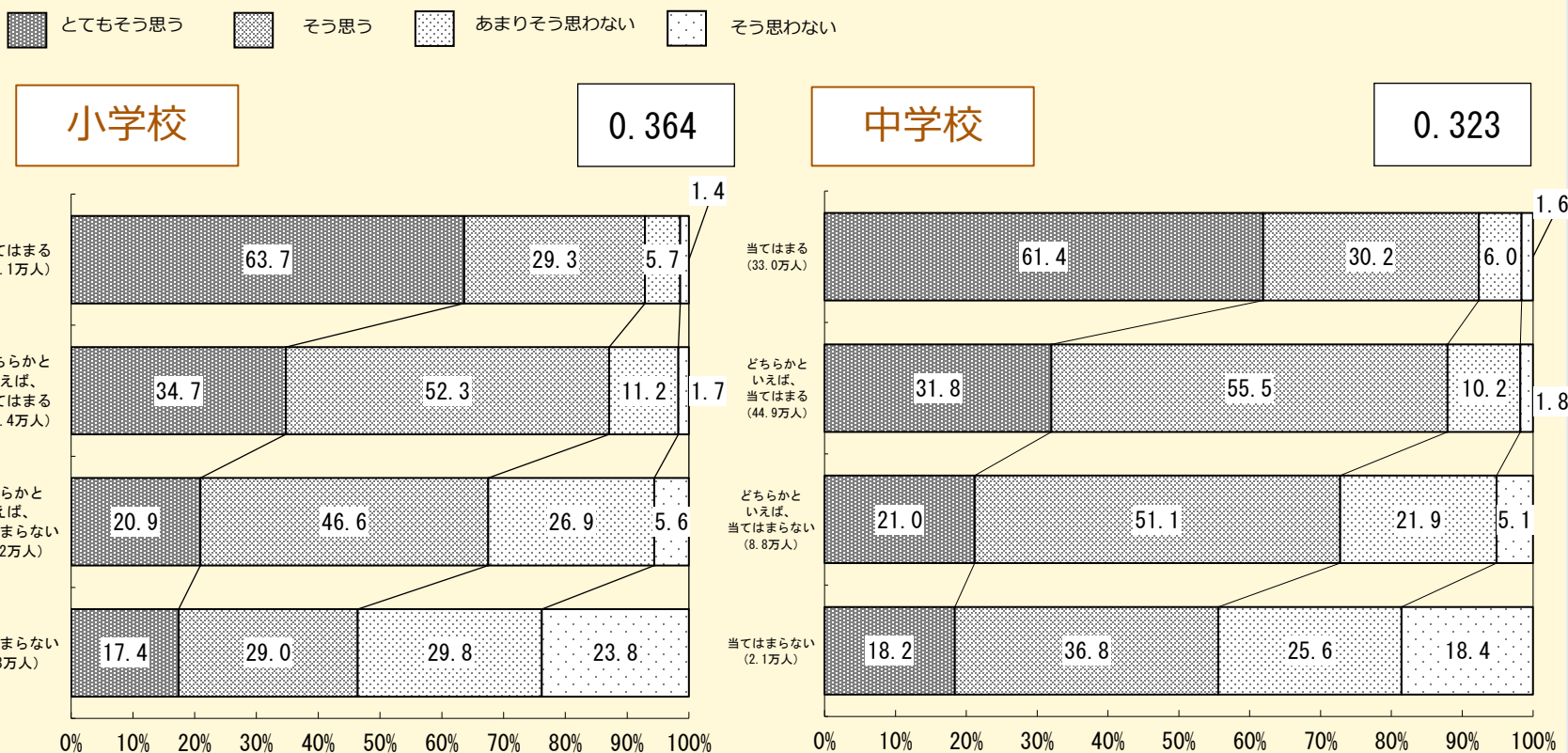
(児童生徒)

クロス  
集計

【話し合う活動】 × 【ICT活用で友達と考えを共有・比較できる】

ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思いますか。〔28-6〕

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔33〕



# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果のポイント（ICT関係まとめ）

## ICT機器の活用

- ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、**小学校93%**（前年比3ポイント増）、**中学校91%**（前年比4ポイント増）。

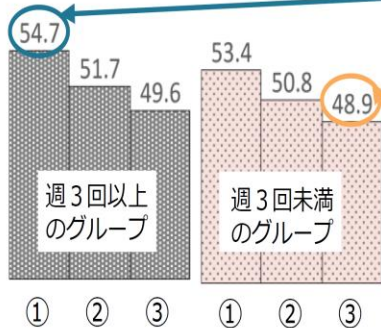
- 課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、**考えをまとめ、発表・表現する場面**でICTを活用している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外のグループよりも**各教科の正答率**が高い。

発表場面でのICT活用頻度別に見た学校質問【課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動】の選択肢ごとの教科の正答率

### 課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動

- ① 当てはまる      ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

中学校数学



発表場面でのICT活用頻度が週3回以上で、課題解決の学習活動の質問に「当てはまる」と回答した学校の生徒の平均正答率は**54.7%**。

発表場面でのICT活用頻度が週3回未満で、課題解決の学習活動の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」又は「当てはまらない」と回答した学校の生徒の平均正答率は**48.9%**。

- 該当者のいる学校の7割以上で、授業配信を含め、ICT機器を活用した**不登校児童生徒の学習活動等の支援**が行われている。

- 約**9割**の児童生徒が、以下のような**ICT機器活用**の効力感を感じている。
  - 分らないことがあった時に、すぐ調べることができる
  - 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる
  - 友達と考えを共有したり比べたりしやすくする

- ICT機器活用の効力感が高い児童生徒ほど、**挑戦心・自己有用感・幸福感**等が高い。

児童生徒質問【ICT活用で友達と考え共有・比較しやすくなる】と児童生徒質問【自分と違う考えについて考えるのは楽しい】のクロス集計

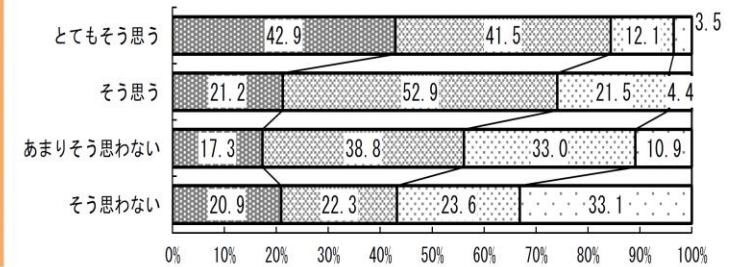
小学校

0.283

### 自分と違う考えについて考えるのは楽しい

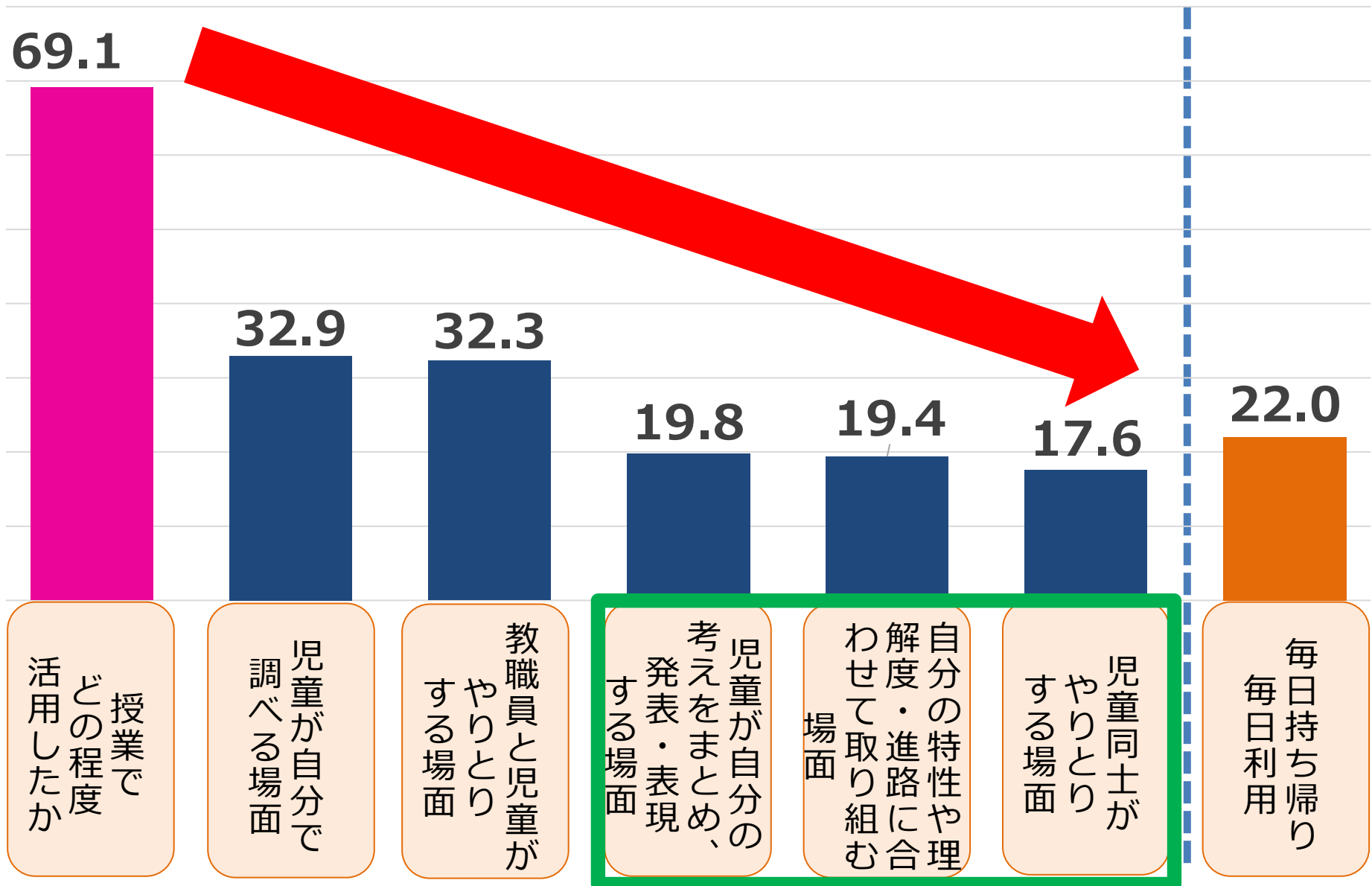
- 当てはまる      ■ どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない      □ 当てはまらない

ICT活用で友達と  
考え共有・比較しやすくなる



# 端末活用：ほぼ毎日と回答した公立小学校の割合

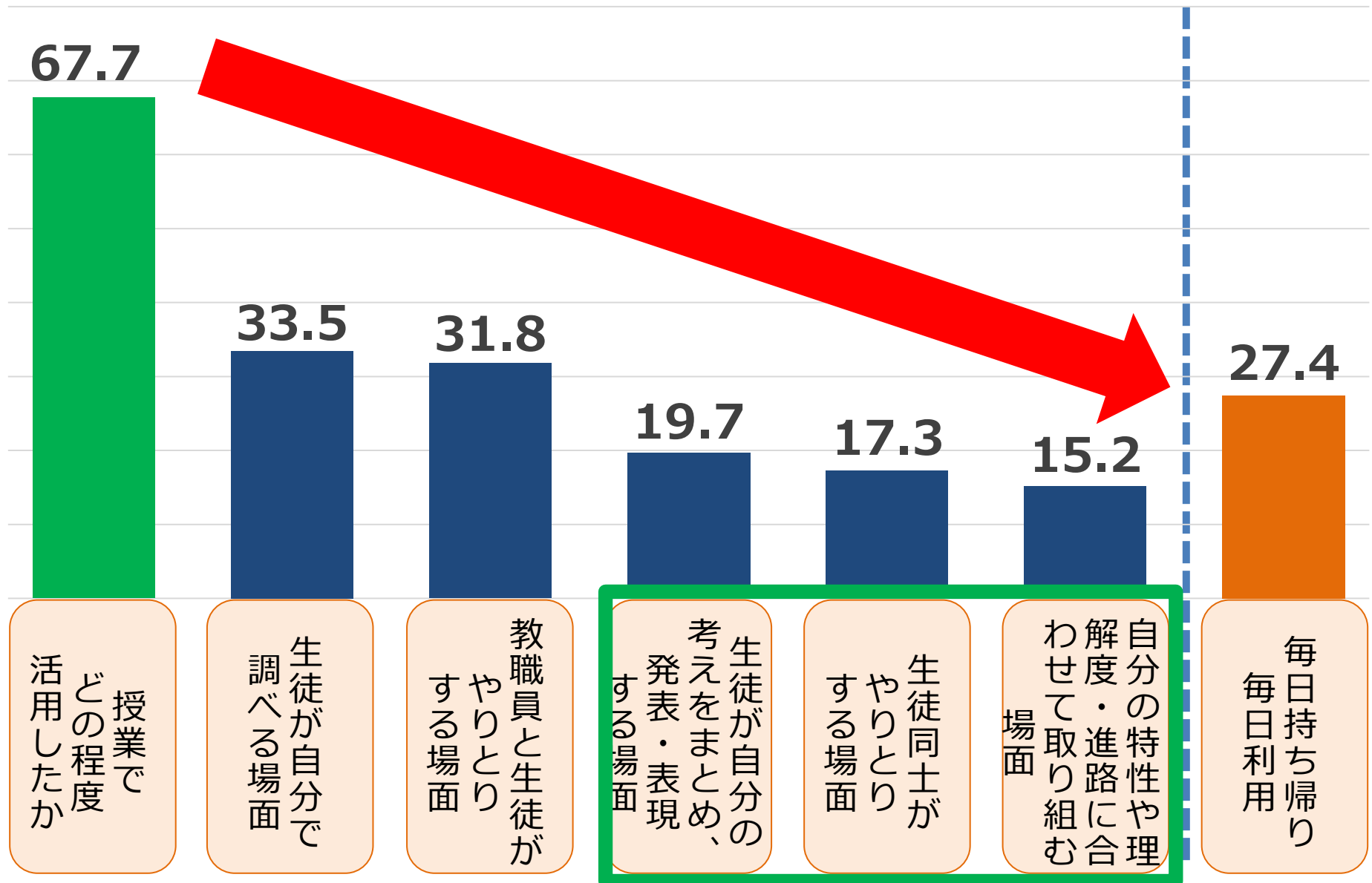
(R6全国学力・学習状況調査結果より[令和6年4月実施])





# 端末活用：ほぼ毎日と回答した公立中学校の割合

(R6全国学力・学習状況調査結果より[令和6年4月実施])



令和6年度 **文部科学省指定校事業**

# リーディングDXスクール



文部科学省

**G I G A**  
標準仕様



クラウド環境  
十全な活用

学校での端末の

「普段使い」による

教育活動の更なる推進

全国の小・中・高等学校

**256校を指定！**

**G I G A**



**生成AI**

個別最適な学びと協働的な学び  
の一体的な充実や校務DX  
を実施し、全国に事例を展開

生成AIパイロット校

**66校を指定！**

**教育利用！**

指定校の実践事例から学ぶ

**公開学習会を開催！**

**校務利用！**

**指定校の実践事例から学ぶ  
公開学習会を開催!**

## R6第1回 6/20 申込2,300名超!

令和6年度文部科学省委託事業  
リーディングDXスクール事業 公開学習会

リーディングDXスクール  
事前申込フォーム  
<https://forms.gle/eT1wojY8bE6mrzq17>  
※学習会準備・会の運営等に影響しますので、必ず事前申込にご協力をお願いします。

リーディングDXスクール事業 指定校の  
**実践事例から学ぼう!**

**第2回 令和6年7月22日(月) 15:30~16:30**  
事例報告 令和5年度の指定校の実践より  
秋田県大仙市、富山県朝日町、山梨県甲府市、滋賀県湖南市  
司会進行 ファシリテーター  
山梨大学教育学部 准教授  
学校DX戦略アドバイザー 三井 一希 氏

**第3回 令和6年7月30日(火) 15:30~16:30**  
事例報告 令和5年度の指定校の実践より  
宮城県仙台第三高等学校、岡山県立林野高等学校  
司会進行 ファシリテーター  
東京学芸大学大学院 教育学研究科 准教授  
学校DX戦略アドバイザー 登本 洋子 氏

Zoom接続先 ※講師等の準備の関係上、必ず申込をお願いします。  
<https://zoom.us/j/96529214464>  
ミーティングID: 965 2921 4464 パスワード: LeadingDX

リーディングDXスクール事業は、GIGAスクールの標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十分に活用し、児童生徒の情報活用能力の向上を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、全国に事例を展開する事業です。地域や校種を超えて様々な取組を参考にし、学校での従来の「普段使い」による教育活動の更なる推進にお役立てください。

リーディングDXスクール事務局  
LeadingDXSchool-event@edu-uchida.jp

本事業に関するメルマガを受信希望の方は、以下URLが右のQRコードからは非登録ください。  
<https://forms.gle/3T3FLyysQ63h76PB8>

文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム

特設サイト

掲載事例数 **1,651** R5公開学習会 申し込み者数 **30,180**名 (GIGA関連学習会含む)  
事例紹介動画再生総数 **94,147**回 授業動画 **36**本 (順次掲載)  
サイト閲覧数 約**39万**

再生回数! **2.5万回突破!**

紹介動画 (4分版) はこちら  
※1分版は、こちら

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを実施し、全国に事例を展開

**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や  
校務DXを実施し、全国に事例を展開**

実践事例

約 **1500** 事例掲載!



# 令和5年度実践事例

①

リーディングDXスクール 生成AIパイロット校一覧 公開授業・公開学習会予定 取組実践 GIGAスクールに関する通知 特集ページ 文部科学省

キーワードによる検索




③

大仙市	大仙市立豊成小学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF
	大仙市立中仙中学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF
朝日町	朝日町立さみさと小学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF
	朝日町立朝日中学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF
甲府市	甲府市立石田小学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF
	甲府市立南西中学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF
湖南省	湖南省立菩提寺小学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF
	湖南省立甲西北中学校	中間報告 PDF	最終報告 PDF

②

令和5年度事業

学校名を入力してください

リーディングDXスクール

イベント情報や事例情報をお届け

## 具体的な事例は令和5年度事業・最終報告を

実践事例動画

36本掲載!



# 令和5年度実践事例動画



リーディングDXスクール  
実践事例



クラウドを活用した校務の効率化  
-情報のクラウド共有・ペーパーレス化-  
吉田町（静岡県）

授業



QRコードまたは「リーディングDXスクールポータルサイト」からアクセス

## 現状・課題

GIGAスクール構想の下、1人1台端末の更新やネットワークの高速化は各自治体において進められているが、その活用状況については自治体間で格差が生じつつある。今後、全ての学校においてICTを日常的に活用し、ICT環境を基盤として、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めることや新たな技術にも対応した情報モラルを含む情報活用能力を育成することが課題である。

## 事業内容

事業実施期間

平成27年～

### OGIGAスクール構想の加速化事業（伴走支援強化・事例創出）

#### 学校DX戦略アドバイザー

- 自治体、学校の要望に応じた各種専門家をアドバイザーとして派遣
- 自治体等の課題と、解決に向けた手立てについて、共通する内容をテーマに研修の実施

#### <課題例>

- 端末を活用した、新たな指導方法のあり方
- 端末を活用した子供の学びのあり方
- 先生にも保護者にも、安心できる持ちかえりのあり方
- 学校での校務DXに向けた取組のあり方
- 自治体におけるネットワーク構成のあり方
- 生成AIを授業に活かす活用のあり方

令和6年度学校DX戦略アドバイザー人数 163人

#### リーディングDXスクール

- 指定校における1人1台端末及び高速ネットワーク（クラウド環境）を基盤とした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する事例の創出
- 様々な事例を全国の学校に普及・展開
- 情報活用能力の育成等ICT活用の意義を伝える研修の実施

- <指定校> 全国で100箇所程度

#### 指定校の取組メニュー（例）

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施
- 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等
- 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修



### 情報モラル教育推進事業

普段から意識すべきことや直面する諸課題（生成AI、ファクトチェックなど）について、児童生徒が自分で考え、解決できる力を身に付けることを目指し、授業で活用できる情報モラルポータルサイトにおける各種コンテンツの充実や情報モラル教育指導者セミナーを開催。

### 児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究

情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な「情報活用能力」を児童生徒（小5、中2、高2）がどの程度身に付けているかを定期的に測定し、施策の改善等に活用。

令和5年度  
● 予備調査

令和6年度  
● 本調査

令和7年度  
● 調査報告書の作成と調査結果の公表  
● 次回の調査に向けた新規調査問題開発



文部科学省  
自治体支援委託事業

# 学校DX戦略アドバイザー事業



2024.4.



本事業は、自治体や教育委員会の設置者等からのご相談、お問合せを対象としています。  
保護者の方からの直接のご相談等はご遠慮ください。

学校DX アドバイザー事業

検索

<https://advisor.mext.go.jp>

## 1. 自治体や教育委員会等からの相談に対応

疑問や相談を**アドバイザー事務局**に連絡

0570-033-335  
平日9時～17時30分

アドバイザー事務局が、  
全国の事例等をもとに、  
**直接回答!**



**アドバイザーを  
選定**し、教育委員会  
等に連絡

専門的な知見を持つアドバイザーが、1人1台端末の効果的な活用等に  
関する相談等に、支援・助言を行います。詳しくはWebサイトでご確認ください。

困っていませんか？

たとえば…

- 「1人1台端末を使った効果的授業ってどう工夫できる？」
- 「先生にも、保護者にも、安心できる持ち帰りをするには？」
- 「クラウドを活用して、どう授業改善する？」
- 「校務の改善ってどう進めればよい？」
- 「校務支援システムの次期更新をどうすればよい？」



## 2. オンライン研修会開催

全国で課題であると思われる内容をテーマに、その解決策、実践事例や工夫等  
を紹介します。(年間複数回を予定)  
各回のテーマ、講師、申込方法等についてはWebページをご確認ください。

★参加者からの質問を受け付けますので、こちらもぜひご活用ください。

自治体等を支援

自治体が抱える課題解決に  
向けて、具体的な支援を実施

リーディングDXスクール  
指定箇所・指定校を支援

1人1台端末の日常使用の事例創出  
にむけ、全国で指定された指定箇所・指  
定校を訪問するなど助言・支援を実施

専門的な知見を持つ

## 学校DX戦略アドバイザー

の助言・支援により地域間格差の解消、  
教育の情報化を一層促進。

運営支援センターの支援

県域等ごとに設置された協議会に伴走し、  
全国の事例を踏まえた支援・助言を実施

高等学校を支援

高等学校学習指導要領を踏まえた端末の活用  
等を具体的に支援

## 3. ICT人材確保のための事業者等の紹介

ICT支援員等の人材の確保に向けて、自治体に対し人材の紹介や派遣等  
を行っている事業者の情報を掲載します。



**ご確認ください!**

※ 契約の条件(事業者に求める具体的な内容、金額  
等)については各事業者に確認をしてください。

# 学校DX戦略アドバイザー事業



自治体や教育委員会等からの相談に対応

教員研修、校務DX、データ活用、生成AI対応  
ネットワーク改善、セキュリティポリシー改訂、ネクストGIGA検討



学校DX戦略アドバイザー事業 ポータルサイト | 学校DX戦略アドバイザー事業 ポータルサイト | 学校DX戦略アドバイザー事業 ポータルサイト | 学校DX戦略アドバイザー事業 ポータルサイト

## 全額国費でアドバイザーを派遣！



相澤 崇	都留文科大 情報センター	大久保 紀一郎	京都教育大学教育創生リサーチセンター	木村 智	六ヶ所村教育委員会 学務課指導グループ	柴田 功	神奈川県立希望ヶ丘高等学校	中川 一史	放送大学	福田 孝義	佐賀未塾 ICT 活用教育研究所	船田 洋人	株式会社アトアイ
青木 高光	長野県長野養護学校 / (長野県特別支援教育ICT活用推進70%) / (国立特別支援教育総合研究所)	大城 智紀	沖縄県教育庁県立学校教育課 教育DX推進室	久世 均	岐阜女子大学 文化創造学部	清水 雅之	上越教育大学	中川 育史	徳島県東みよし町立居部小学校	福岡 利信	東京都立田園調布高等学校	渡部 昭	東京都墨田区教育委員会 庶務課教育情報担当
赤堀 低司	一般社団法人 ICT CONNECT 21 / 東京工業大学	太田 耕司	東京都中学校区長会事務局	工藤 紀碼	慶應義塾大学院 政策・メディア研究科	新保 元康	福井県立大学 一般社団法人北海道開発技術センター 地域政策研究科	永田 朗	福岡市教育委員会 教育ICT推進課	藤村 裕一	鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 教員養成DX推進機構	高岡 亮	山口大学 教育学部
船倉 一民	札幌市立登美南小学校	大坪 聡子	つば市教育局 (兼) 総合教育研究所	藤巻 真紀子	富山県立芝小中学校	畠山 孝雄	シロントウネット株式会社	中橋 謙	日本大学 文理学部 教育学科	藤森 裕治	文教大学 教育学部 発達教育課程	野下 哲也	東北大学 教育学部 21世紀未来学
阿濱 茂樹	山口大学 教育学部	大西 智彦	江別市立中央中学校	久保田 直彦	玉川大学大学院 教育学研究科	菅原 弘一	国立大学法人 宮城教育大学 教職大学院	西田 光昭	柏市教育委員会指導課	古庄 泰則	熊本県高森町教育委員会	只木 進一	佐賀大学 理工学部
荒木 貴之	社会構想大学院大学 / 情報経営イノベーション専門職大学 (ネットワーキングホールディングス)	小川 修史	兵庫教育大学 情報処理センター	倉田 伸	長崎大学 教育学部	鈴木 啓文	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術基盤課 学術認証推進室	西野 厚	足立区教育委員会 学校ICT推進担当課	星野 樹治	慶應義塾大学SFC研究所 一般社団法人 城産官学共創機構	中村 武弘	奈良教育大学 次世代教員養成センター
安藤 明伸	広島工業大学 情報学部 情報コミュニケーション学科	尾崎 拓郎	大阪教育大学 理数情報教育系	小崎 誠二	奈良県立教育研究所 教育情報化推進部	須藤 祥代	千代田区立九段中等教育学校	西村 陽介	津浦市立志津小学校	堀田 博史	園田学園女子大学 人間教育学部	山下 学	宮城県石巻高等学校
五十嵐 昌子	教育 ICT 環境アドバイザー協会 合同会社かみがる	小澤 直樹	都立町田高等学校	後藤 康志	新潟大学 教育基盤機構全学教職センター	全 ハル	千葉大学 情報戦略機構 (旧版情報センター)	新田 正	京都市教育委員会事務局 指導部学校指導課	登本 洋子	東京学芸大学	福田 順子	東京都教職員研修センター 研修部専門
池田 修	京都橋大学 学発推進学部児童教育学科	小林 祐典	宮崎大学 教育学部	小林 祐典	宮崎大学 教育学部	泰山 裕	鳴門教育大学	橋本 雅史	神奈川県教育委員会教育局 指導部高校教育課高校教育企画室 / 国際情報教育グループ	益川 弘如	聖心女子大学 現代教養学部	林 向達	徳島大学 人間生活学部 児童学科
石井 一三三	八戸市立江藤小学校	小柳 和直	関西大学 総合情報学部	柳崎 彰一	渋谷区立原宿外苑中学校	高橋 邦夫	合同会社KUCOコンサルティング	渡池 隆	早稲田大学 理工学術院 創理理工学部 経営システム工学科	松尾 志名	名古屋工業大学	佐藤 昌宏	デジタルリカバリー大学院
石野 正彦	所屬なし	折田 昌一	慶應義塾大学SFC研究所 / 鹿児島県立福山高等学校	小松川 浩	公立千歳科学技術大学 理工学部 情報システム工学科	竹中 卓晴	岡山学院大学 / 金誠学院大学 / 奈良女子大学 / 奈良教育大学	長谷川 洋	広島市立牛田中学校	水内 重和	島根県立大学 人間文化学部 保育教育	神野 元基	学校法人東明学園
坂垣 翔大	宮城教育大学 教育学部	片山 敏郎	新潟市大野小学校	今野 貴之	明星大学 教育学部 教育学科	田島 浩一	広島大学 情報メディア教育研究センター	長谷川 洋	広島市立牛田中学校	水谷 年季	春日井市教育委員会 教育研究所	毛利 靖	茨城大学 教育学部
井手 広康	愛知県立小牧高等学校 (高; 情報)	加藤 直樹	東京学芸大学	藤原 ひとみ	愛知教育大学	合 正友	一般社団法人教育ICT政策支援機構	林 正憲	代々木ゼミナール教育総合研究所 / 北海道高等学校長協会	三井 一希	山梨大学	井上 勝	MICTA / お茶の水女子大学附属中学校
稲垣 忠	東北学院大学 文学部	門田 哲也	RIESAconsulting	高井 郷平	常葉大学 教育学部	玉置 崇	岐阜聖徳学園大学	東原 義訓	北海道札幌北高等学校校長 3月まで定年退職	藤手 吾吾	HILLOCK初等部	福本 徹	国立教育政策研究所 生理学政策研究部 (件) 研究企画開発部教育研究情報推進室総括研究官
稲木 健太郎	壬生町教育委員会事務局 学校教育課	金子 大輔	北星学園大学 経済学部	佐藤 和紀	信州大学 教育学部附属現代世代学術研究開発センター	津賀 宗亮	茨城県立 IT 未来高等学校	山崎 耕寿	早稲田大学 教育総合研究所 / 北海道高等学校長協会	藤 万壽子	北海道公立学校初任者教員指導者推進本部		
今田 晃一	大阪樟蔭女子大学 学芸学部	鹿野 利春	京都精華大学	坂本 新太郎	仙台市立七郎中学校	辻 慎一郎	鹿児島県給食市立帖在中国小学校	東原 義訓	東京学芸大学 / 一般社団法人 教育情報化推進機構 / 信州大学 合同会社未来教育デザイン	山西 朔一	富山大学 / 一般社団法人 日本教育情報化振興会 / 上越教育大学		
岩崎 有朋	札幌国際大学 全学共通教育部 情報教育部	河田 祥司	香川県高松市総合教育センター	佐藤 幸江	大津市立川南高等学校	坪井 康徳	長野県庁 総務部総務事務総務課 支援係	平井 聡一郎	株式会社情報通信総合研究所 ICTU サードパーティング	山本 公彦	甲府市教育委員会 学校教育課		
氏間 和仁	広島大学大学院 人間社会科学研究科	菅野 光明	合同会社LTS	佐藤 義弘	東京都立川崎高等学校 情報科	寺嶋 浩介	大阪教育大学			山本 圭作	高松市教育委員会		
梅崎 真樹	慶應義塾大学院 政策・メディア研究科	城井 順一	熊本県阿蘇市立一の宮小学校	佐和 伸明	千葉県市川市立大津ヶ丘第一小学校	遠山 紗矢香	静岡大学 情報学部			山本 朋弘	中村学園大学 教育学部		
梅田 恭子	愛知教育大学	岸 啓典子	明治大学 国際日本学部	堀田 真吾	静岡大学								
		木田 博	鹿児島県立教育委員会学校ICT推進センター										

adviser-info@japet.or.jp  
0570-033-335  
平日9時~17時30分

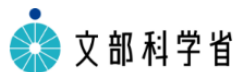


# 学校DX戦略アドバイザー事業 問い合わせ案件数状況

	令和4年度※1	令和5年度	令和6年度 (3カ月分※3)
問い合わせ 案件数	881 件	1,302 件	1,023 件
窓口対応総回数 (※2)	5,360回	14,619回	7,131回

- ※1 令和4年度の名称は「ICT活用教育アドバイザー事業」
- ※2 相談対応、アドバイザーとの調整対応、アドバイザー派遣等含む
- ※3 令和6年7月23日時点（本事業開始後、およそ3カ月分）

# 学校DX戦略アドバイザーの活用を！



文部科学省

<https://advisor.mext.go.jp/>

## 学校DX戦略アドバイザー事業 ポータルサイト

アドバイザー  
(探す・依頼)

学習会／研修会情報  
(探す・一覧)

サポート事業者  
(探す・一覧)

文科省からの  
お知らせ

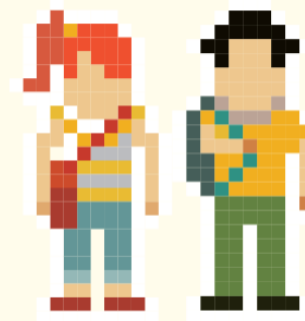
GIGAスクール  
動画

情報活用能力  
関連サイト



### 学校DX戦略アドバイザー

教育現場のDX推進のための  
アドバイザーによる支援を活用ください。  
※ご相談・お申込みは下記よりお寄せください。



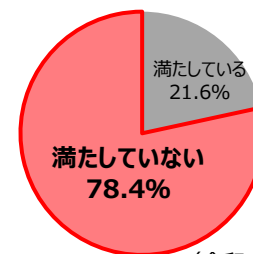
# 2

令和7年度概算要求について  
③校務DXの推進

## 現状・課題

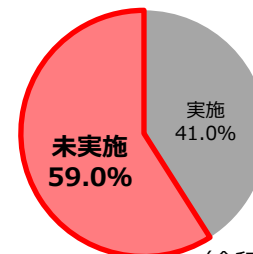
- 1人1台端末の日常的な利活用や、デジタル教科書、CBTの導入が進むなかで、文部科学省は令和6年4月に同時・多数・高頻度での端末活用を想定した「当面の推奨帯域」を設定。
- 一方、この推奨帯域を満たしていない学校は8割となっている。今後、ネットワークアセスメントの徹底やその結果を受けた通信ネットワークの着実な改善を図る必要。
- また、学校における働き方改革や学習系・校務系データの連携、大規模災害等発生時のレジリエンス確保を実現する、クラウド環境・アクセス制御型のセキュリティ対策を前提とした次世代校務DX環境の整備、教育データ利活用の基盤となる情報セキュリティ対策、教職員のICTリテラシーの向上、端末の着実な更新など、GIGAスクール構想第2期を強力に推進するための基盤整備が急務。

当面の推奨帯域を満たす学校の割合



(令和5年度)

ネットワークアセスメント実施状況



(令和5年度)

## 事業内容

### (1) 学校の通信ネットワーク速度の改善

- ① ネットワークアセスメントの実施、② アセスメントの結果を踏まえたネットワーク環境の改善、③ 回線契約の切り替えに係る初期費用を支援。これにより、通信ネットワークの改善を図る。

- ※ ネットワークアセスメント…学校内外のネットワーク構成要素を評価し、課題の把握・原因箇所の特定を行うこと。
- ※ ②、③の支援対象はネットワークアセスメント実施済学校に限る。
- ※ 校内のネットワーク環境を整備するための工事に要する費用の支援については、別途「学校施設環境改善交付金」において概算要求。

### (2) 次世代校務DX環境の全国的な整備

- ① 都道府県域での共同調達を前提とした次世代校務DX環境の整備支援  
都道府県域での共同調達・帳票統一を前提に、自治体の次世代校務DX環境整備に係る初期費用を支援。
- ② 都道府県域での次世代校務DX環境整備に向けた準備支援  
都道府県域での共同調達を前提に次世代校務DX環境整備を行う際に必要となる帳票統一・ネットワーク環境等に関する都道府県域内の実態調査、ロードマップの策定、RFP作成等の各種プロセスを支援。

### (3) 学校DXのための基盤構築

- 教育情報セキュリティポリシーの策定/改定支援、セキュリティリスクアセスメント、教職員やICT支援人材のためのICT研修等、学校DXに向けた技術的なコンサルタントに要する経費を支援。

このほか、共同調達スキーム下での着実な端末更新を実施。

<ネットワーク・アセスメントのイメージ>



<次世代校務DXとは>

令和5年3月に文部科学省がとりまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」に方向性を示している、ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方。

#### 補助率等

事業主体：都道府県、市町村

補助割合等：3分の1

補助上限（事業費ベース）：

- (1)：①：1,000千円/校 ②：2,000千円/校 ③：400千円/校
- (2)：①：6,800千円/校 ②：50,000千円/都道府県
- (3)：200千円/校

端末更新については令和5年度補正予算と同等の条件で支援。

## 2. 各分野における改革

### 【教育】

#### ◆実現に向けて必要となる取組

##### （校務DXの推進）

2023年9月から、校務におけるクラウドツールの活用状況やペーパーレス化の実態などの①**全国の校務DXの取組について「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」**に基づく学校・教育委員会の自己点検を実施し、**2024年3月に結果を公表した。**

2023年12月には各教育委員会に対して通知を発出し、教育委員会から学校への文書送付のデジタル化の徹底により、例えば、2024年4月の入学手続きに伴う学校による名簿情報のシステムへの手入力作業の負担をできる限り軽減するよう求めるとともに、**2025年度末までの学校における押印・FAXの原則廃止に向けて必要な取組を進めることを示した。**

さらに、2024年4月には教育DXに係る当面の重要業績評価指標（KPI）を決定した。また、①校務DXについて、政策に関する進捗等の情報を可視化し、一元的に表示・閲覧できるツール（政策ダッシュボード）をデジタル庁及び文部科学省において共同開発し、重要業績評価指標（KPI）のうち「クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校」及び「FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校」という指標について、全国の実態を当該ツール上に可視化した。

今後、②2026年度から4年間かけてパブリッククラウド環境を前提とした次世代校務DX環境への移行を順次進める。併せて都道府県単位での校務支援システムの共同調達を推進することで、コスト削減を図るとともに、教師の異動に際する負担の軽減、自治体における事務負担の軽減、特に小規模自治体での安定的な調達を後押しする。校務DXの着実な推進のため、文部科学省は引き続き各教育委員会による教育情報セキュリティポリシーの策定及び見直しを働きかけるとともに、政策に関する進捗等の情報を可視化し、一元的に表示・閲覧できるツール（政策ダッシュボード）等も活用し、全国の校務DXの実態を把握しながら必要な施策を進める。

また、次世代型校務支援システムの導入に際して、県内を異動する教師の負担軽減、校務支援システムの調達費用の削減、及びデータの引継ぎの効率化のため、②小中学校等における指導要録、健康診断票、出席簿、調査書については国又は都道府県単位で共通化やデータ標準化を行い、その他の帳票も含めて特段の支障がない限りカスタマイズ(独自仕様の導入)を行わないよう働きかける。

加えて、中学校・高校の教師の事務負担に加え、生徒・保護者にとっても負担となる高校入試事務手続のデジタル化を推進するため、技術仕様の検討を速やかに行い、意欲ある地方公共団体と連携して実証に取り組む。

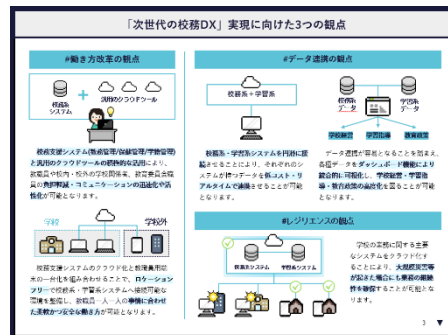
更に、ネットワークについては、2023年11月に全国の公立小・中・高等学校に実施した簡易帯域測定の結果(速報値)を、一定の仮定の下で推計すると、「当面の推奨帯域」を満たす学校は2割程度に留まっていたことから、文部科学省は、GIGA第二期の学びの観点から、自治体に必要なネットワーク速度を定めた上でネットワークアセスメントの実施を促し、2025年度末までに、全ての学校で必要なネットワーク環境が整備されるよう措置を講じる。

## 令和5年度の成果

## 課題

### ● 次世代校務DXモデル創出

秋田県・山口県にて、ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる**次世代校務DX環境のモデルケース**を創出。



### ● 次世代型校務支援システム開発支援

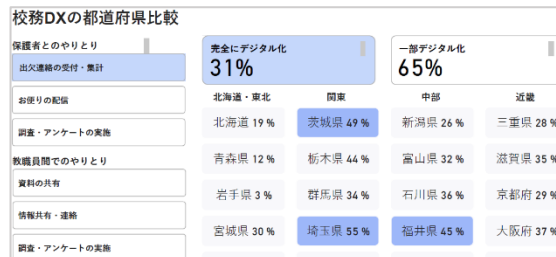
校務システムベンダーに対し、クラウド環境での利用を前提とした**校務支援システムの開発**を支援。

### ● システム、帳票の統一化に関する調査

都道府県域での校務DXの実態（校務システムの共同調達・帳票統一化状況等）を調査。

### ● 校務DXダッシュボード開発

デジタル庁と共同開発。**取組状況を可視化**することにより、全国的に校務DXを強力に推進。



- ◆ 令和5年度にモデルケースとして構築した次世代校務DX環境を運用（ロケーションフリーでの校務実施、指導者用端末と校務用端末の一台化での運用、ダッシュボードの運用等）する際のメリットや課題の更なる分析が必要
- ◆ 都道府県域での校務支援システムの統一化が道半ば（47都道府県中校務支援システムの共同調達実施は20、うち域内の全自治体が参加している事例は5。）
- ◆ 帳票のばらつきが明らかに

都道府県における専門人材の不足やシステム・帳票統一に係るコストが都道府県域での校務DX推進の障壁になっていることが判明

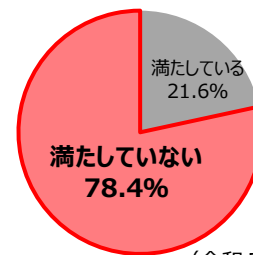
- R6年度も都道府県域での次世代校務DXモデルケースを創出・展開
- 都道府県による次世代型校務支援システムの共同調達・帳票統一・セキュリティポリシー策定・校務DXを促進するための取組を加速



## 現状・課題

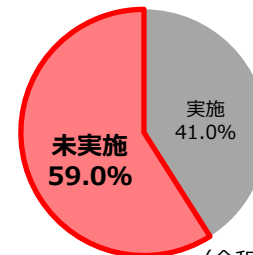
- 1人1台端末の日常的な利活用や、デジタル教科書、CBTの導入が進むなかで、文部科学省は令和6年4月に同時・多数・高頻度での端末活用を想定した「当面の推奨帯域」を設定。
- 一方、この推奨帯域を満たしていない学校は8割となっている。今後、ネットワークアセスメントの徹底やその結果を受けた通信ネットワークの着実な改善を図る必要。
- また、学校における働き方改革や学習系・校務系データの連携、大規模災害等発生時のレジリエンス確保を実現する、クラウド環境・アクセス制御型のセキュリティ対策を前提とした次世代校務DX環境の整備、教育データ利活用の基盤となる情報セキュリティ対策、教職員のICTリテラシーの向上、端末の着実な更新など、GIGAスクール構想第2期を強力に推進するための基盤整備が急務。

当面の推奨帯域を満たす学校の割合



(令和5年度)

ネットワークアセスメント実施状況



(令和5年度)

## 事業内容

### (1) 学校の通信ネットワーク速度の改善

- ① ネットワークアセスメントの実施、② アセスメントの結果を踏まえたネットワーク環境の改善、③ 回線契約の切り替えに係る初期費用を支援。これにより、通信ネットワークの改善を図る。

- ※ ネットワークアセスメント…学校内外のネットワーク構成要素を評価し、課題の把握・原因箇所の特定を行うこと。
- ※ ②、③の支援対象はネットワークアセスメント実施済学校に限る。
- ※ 校内のネットワーク環境を整備するための工事に要する費用の支援については、別途「学校施設環境改善交付金」において概算要求。

### (2) 次世代校務DX環境の全国的な整備

- ① 都道府県域での共同調達を前提とした次世代校務DX環境の整備支援  
都道府県域での共同調達・帳票統一を前提に、自治体の次世代校務DX環境整備に係る初期費用を支援。
- ② 都道府県域での次世代校務DX環境整備に向けた準備支援  
都道府県域での共同調達を前提に次世代校務DX環境整備を行う際に必要となる帳票統一・ネットワーク環境等に関する都道府県域内の実態調査、ロードマップの策定、RFP作成等の各種プロセスを支援。

### (3) 学校DXのための基盤構築

教育情報セキュリティポリシーの策定/改定支援、セキュリティリスクアセスメント、教職員やICT支援人材のためのICT研修等、学校DXに向けた技術的なコンサルタントに要する経費を支援。

このほか、共同調達スキーム下での着実な端末更新を実施。

<ネットワーク・アセスメントのイメージ>



<次世代校務DXとは>

令和5年3月に文部科学省がとりまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」に方向性を示している、ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方。

#### 補助率等

事業主体：都道府県、市町村

補助割合等：3分の1

補助上限（事業費ベース）：

- (1)：①：1,000千円/校 ②：2,000千円/校 ③：400千円/校
- (2)：①：6,800千円/校 ②：50,000千円/都道府県
- (3)：200千円/校

端末更新については令和5年度補正予算と同等の条件で支援。

# GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト

～学校・教育委員会の自己点検結果～

〔確定値〕

令和6年3月29日

文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム



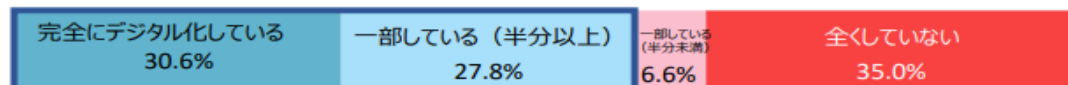
自治体別回答も  
公表中

# 汎用クラウドツールの活用・ペーパーレス化等に関する学校の実態

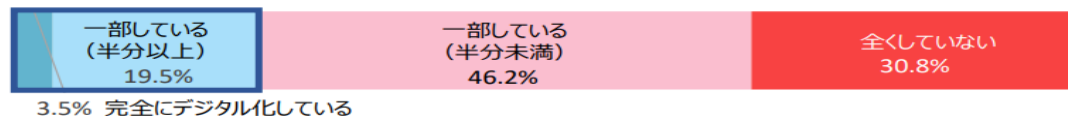
(「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストに基づく学校・教育委員会の自己点検結果 (R6.3)」)

## 【汎用クラウドツールの活用】

児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、P C・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計していますか



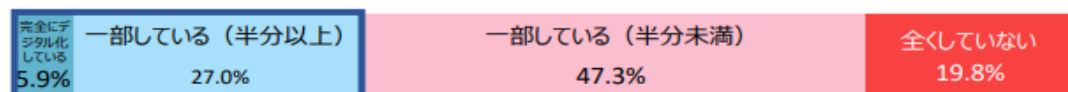
児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか



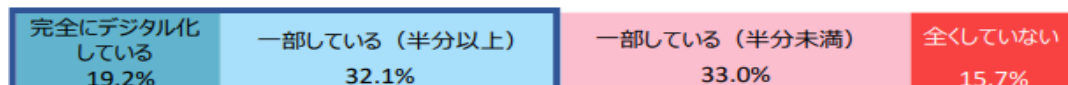
児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか



学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか



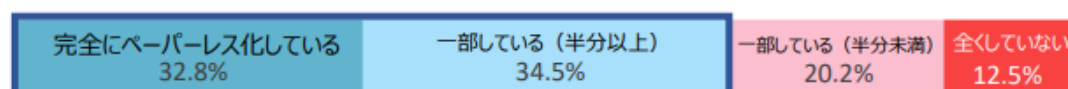
保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか



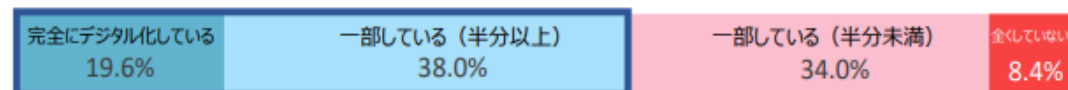
職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか



職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか



教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか



# 汎用クラウドツールの活用・ペーパーレス化等に関する学校の実態

(「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストに基づく学校・教育委員会の自己点検結果 (R6.3)」)

## 【ペーパーレス化】

業務にFAXを使用していますか



保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類はありますか



## 【生成AIの校務での活用】

「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成AIを校務で活用していますか



# 汎用クラウドツールの活用・ペーパーレス化等に関する教育委員会の実態

(「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストに基づく学校・教育委員会の自己点検結果 (R6.3)」)

教職員に外部ともやり取り可能な校務用の個人メールアドレスを  
付与していますか



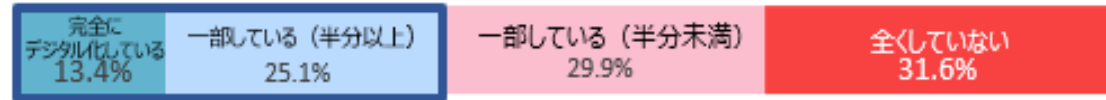
教育委員会に学校と同様のクラウド環境を整備していますか



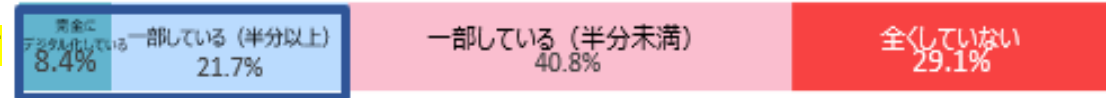
教育委員会主催の研修で端末利用・持ち込みを基本とし、クラウドサービスを活用していますか



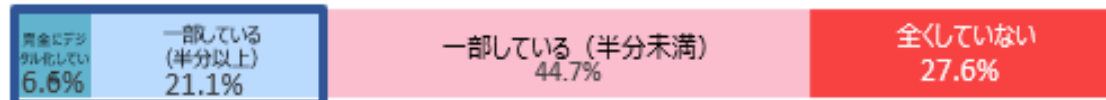
教育委員会主催の研修アンケート等をクラウドサービスを用いて  
実施・集計していますか



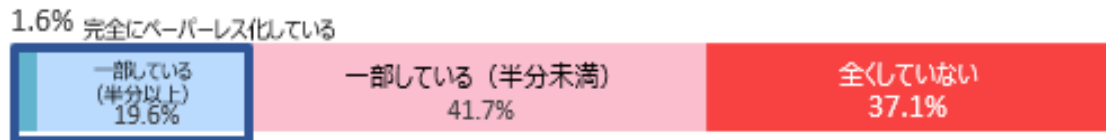
教育委員会から学校及び教職員へのお知らせや相互の情報共有  
等をクラウドサービスを用いて行っていますか



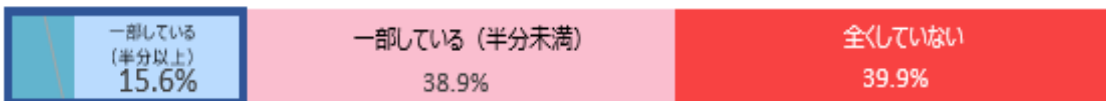
教育委員会が学校に発信する通知や調査をクラウドサービス等  
を用いて共有、実施、集計していますか



学校との各種事務手続きをペーパーレス化していますか



教育委員会主催の研修について、資料をクラウド上に  
アップロードしいつでも参照できる環境としていますか



5.6% 全て参照できる環境としている

## 学校から教職員に紙で提出を求めている主な書類

- 各種手当に関する書類（通勤手当・住宅手当・児童手当・扶養手当・単身赴任手当・寒冷地手当・特殊勤務手当 等）
- 給与支払口座登録書類
- 扶養控除・保険料控除申請書類を含む年末調整に関する書類
- 各種申請書類（休暇申請・在宅勤務申請・学習用端末の校外持ち出し申請・校地使用申請・自家用車の公用使用申請 等）

## 学校からの主なFAX送付先

業務でFAXを使用していると回答した学校のうち送付先

- 民間事業者 : 70%
- 教育委員会 : 57%
- 給食センター : 32%
- 教科等の研究団体 : 27%
- その他 : 25%
- 中体連 : 13%
- 校長会 : 11%
- 教頭会・副校長会 : 10%

主なその他の送付先

- 学校等  
（保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校）
- PTA関連組織  
（共済会・連合会・安全互助会・連絡協議会・事務局 等）
- 自治体関連組織  
（役所・役場・町内会 等）

## 保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類

- 通知表
- 各種参加・同意・承諾に関する書類（修学旅行・宿泊学習・部活動大会参加 等）
- 各種調査に関する書類（進路希望調査・健康調査・児童環境調査 等）
- 各種申請書（端末借用申請・携帯電話持ち込み申請・学校施設利用申請・就学援助申請・口座振替申請・スクールバス申請 等）

## 全国の校務DXの取組状況



校務DX項目

教員と保護者間：欠席・遅刻・早退連絡

デジタル化状況

完全にデジタル化

文部科学省

北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
北海道 19%	茨城県 49%	新潟県 24%	三重県 26%	鳥取県 20%	福岡県 35%
青森県 12%	栃木県 43%	富山県 32%	滋賀県 34%	島根県 15%	佐賀県 13%
岩手県 3%	群馬県 34%	石川県 36%	京都府 29%	岡山県 15%	長崎県 24%
宮城県 29%	埼玉県 55%	福井県 45%	大阪府 36%	広島県 19%	熊本県 14%
秋田県 13%	千葉県 40%	山梨県 22%	兵庫県 35%	山口県 14%	大分県 30%
山形県 19%	東京都 41%	長野県 36%	奈良県 36%	徳島県 7%	宮崎県 24%
福島県 19%	神奈川県 37%	岐阜県 52%	和歌山県 10%	香川県 8%	鹿児島県 14%
		静岡県 50%		愛媛県 15%	沖縄県 32%
		愛知県 35%		高知県 15%	

● 上位5位

※「校内での情報共有」「FAXの原則廃止」「押印・署名の原則廃止」の割合は、「完全にデジタル化」「半分以上デジタル化」に関わらず、「実施済」の割合を表しています。

2024年2月時点の数値

- **標準的なGIGAスクール環境（児童生徒1人1台、教師1人1台、クラウド環境）の下で実行可能なものが大多数**
- **本調査の結果を単純比較に用いるのではなく、ネットワークや端末、関係規則の整備も含め、改めて教職員全体で今回の結果を見直し、校務DXの改善と徹底に活かすツールとして利活用いただきたい**
- **近々、フォローアップ調査を実施予定**



# 2

## 令和7年度概算要求の全体像

## 現状・課題

- 1人1台端末の日常的な利活用や、デジタル教科書、CBTの導入が進むなかで、文部科学省は令和6年4月に同時・多数・高頻度での端末活用を想定した「当面の推奨帯域」を設定。
- 一方、この推奨帯域を満たしていない学校は8割となっている。今後、ネットワークアセスメントの徹底やその結果を受けた通信ネットワークの着実な改善を図る必要。
- また、学校における働き方改革や学習系・校務系データの連携、大規模災害等発生時のレジリエンス確保を実現する、クラウド環境・アクセス制御型のセキュリティ対策を前提とした次世代校務DX環境の整備、教育データ利活用の基盤となる情報セキュリティ対策、教職員のICTリテラシーの向上、端末の着実な更新など、GIGAスクール構想第2期を強力に推進するための基盤整備が急務。

## 事業内容

### (1) 学校の通信ネットワーク速度の改善

- ① ネットワークアセスメントの実施、② アセスメントの結果を踏まえたネットワーク環境の改善、③ 回線契約の切り替えに係る初期費用を支援。これにより、通信ネットワークの改善を図る。

- ※ ネットワークアセスメント…学校内外のネットワーク構成要素を評価し、課題の把握・原因箇所の特定を行うこと。
- ※ ②、③の支援対象はネットワークアセスメント実施済学校に限る。
- ※ 校内のネットワーク環境を整備するための工事に要する費用の支援については、別途「学校施設環境改善交付金」において概算要求。

### (2) 次世代校務DX環境の全国的な整備

- ① 都道府県域での共同調達を前提とした次世代校務DX環境の整備支援

都道府県域での共同調達・帳票統一を前提に、自治体の次世代校務DX環境整備に係る初期費用を支援。

- ② 都道府県域での次世代校務DX環境整備に向けた準備支援

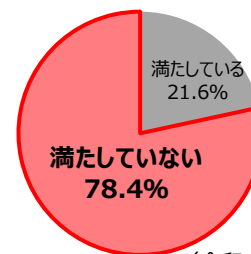
都道府県域での共同調達を前提に次世代校務DX環境整備を行う際に必要となる帳票統一・ネットワーク環境等に関する都道府県域内の実態調査、ロードマップの策定、RFP作成等の各種プロセスを支援。

### (3) 学校DXのための基盤構築

教育情報セキュリティポリシーの策定/改定支援、セキュリティリスクアセスメント、教職員やICT支援人材のためのICT研修等、学校DXに向けた技術的なコンサルタントに要する経費を支援。

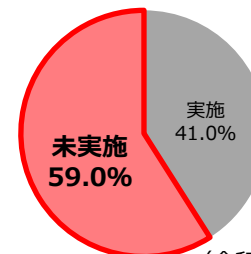
このほか、共同調達スキーム下での着実な端末更新を実施。

当面の推奨帯域を満たす学校の割合



(令和5年度)

ネットワークアセスメント実施状況



(令和5年度)

<ネットワーク・アセスメントのイメージ>



<次世代校務DXとは>

令和5年3月に文部科学省がとりまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」に方向性を示している、ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方。

#### 補助率等

事業主体：都道府県、市町村

補助割合等：3分の1

補助上限（事業費ベース）：

- (1)：①：1,000千円/校 ②：2,000千円/校 ③：400千円/校
- (2)：①：6,800千円/校 ②：50,000千円/都道府県
- (3)：200千円/校

端末更新については令和5年度補正予算と同等の条件で支援。

## 現状・課題

GIGAスクール構想の下、1人1台端末の更新やネットワークの高速化は各自治体において進められているが、その活用状況については自治体間で格差が生じつつある。今後、全ての学校においてICTを日常的に活用し、ICT環境を基盤として、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めることや新たな技術にも対応した情報モラルを含む情報活用能力を育成することが課題である。

## 事業内容

事業実施期間

平成27年～

## OGIGAスクール構想の加速化事業（伴走支援強化・事例創出）

### 学校DX戦略アドバイザー

- 自治体、学校の要望に応じた各種専門家をアドバイザーとして派遣
- 自治体等の課題と、解決に向けた手立てについて、共通する内容をテーマに研修の実施

#### <課題例>

- 端末を活用した、新たな指導方法のあり方
- 端末を活用した子供の学びのあり方
- 先生にも保護者にも、安心できる持ちかえりのあり方
- 学校での校務DXに向けた取組のあり方
- 自治体におけるネットワーク構成のあり方
- 生成AIを授業に活かす活用のあり方

令和6年度学校DX戦略アドバイザー人数 163人

### リーディングDXスクール

- 指定校における1人1台端末及び高速ネットワーク（クラウド環境）を基盤とした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する好事例の創出
  - 様々な事例を全国の学校に普及・展開
  - 情報活用能力の育成等ICT活用の意義を伝える研修の実施
- <指定校> 全国で100箇所程度

#### 指定校の取組メニュー（例）

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施
- 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等
- 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修



## ○情報モラル教育推進事業

普段から意識すべきことや直面する諸課題（生成AI、ファクトチェックなど）について、児童生徒が自分で考え、解決できる力を身に付けることを目指し、授業で活用できる情報モラルポータルサイトにおける各種コンテンツの充実や情報モラル教育指導者セミナーを開催。

## ○児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究

情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な「情報活用能力」を児童生徒（小5、中2、高2）がどの程度身に付けているかを定期的に測定し、施策の改善等に活用。

令和5年度  
● 予備調査

令和6年度  
● 本調査

令和7年度  
● 調査報告書の作成と調査結果の公表  
● 次回の調査に向けた新規調査問題開発

## 現状・課題

- 令和5年度から生成AIパイロット校を指定。生成AIを教育・校務で活用する実践例は、学校現場から生まれつつある。
- 子供の学びの充実や教職員の負担軽減に向けて、①パイロット校以外の国内事例の収集、②生成AIの活用に伴うリスクへの対応（例：ガイドラインの遵守、セキュアな環境下での活用）を考慮した先進的な取組、③教育分野に特化した生成AIモデル・サービスに関する実証等を多面的に進め、その成果・課題を検証しながら成果の普及を図ることが必要。

骨太方針2024 (R6.6.21 閣議決定)  
第2章3.(1) DX (教育DX)  
**こどもたちの学びの更なる充実と教職員の負担軽減に向け、国策として推進するGIGAスクール構想を中心に、クラウド環境や生成AIの活用等による教育DXを加速する。**

## 1. 教育分野での利活用の検討

### a. 生成AI利活用に向けた事例収集等

教育分野における生成AIの利活用に関するハッカソンやアイデアソンを実施し、学校等における利活用について好事例収集を行う。

### b. 学校現場における利活用等の実態調査、事例集の作成

学校現場における生成AIの利活用等の実態調査を実施。イベントやパイロット校での実践例も踏まえ、好事例や留意点を普及させるための事例集の作成を行う。

### c. 生成AIの利活用に関する検討会議の運営

生成AIの利活用の在り方について、有識者検討会議を運営し、実践事例を基にした成果・課題の検証、リスクや懸念の対処を含む利活用の在り方について検討を行う。

#### 事業スキーム



ハッカソンやアイデアソンの実施：40百万円  
実態調査・事例集作成：44百万円  
検討会議の運営：9百万円

## 2. 生成AIの利活用に関する実証研究

### a.) 生成AIパイロット校の指定を通じた利活用事例の創出

#### 事業概要

生成AIの利活用の実証を学校単位で進める指定校を支援。  
①教育利用：教科等横断的かつ学年横断的に活用する申請校を優先採択  
②校務利用：活用する業務や活用方法を「見える化」し、他校と組織的に情報共有する申請校を優先支援

#### 想定成果

- 年間指導計画やカリキュラムに体系的に位置付けて行われる取組事例の創出
- 汎用基盤モデルを活用した、校務での利活用事例の創出、学校間の事例共有

#### 事業スキーム



### b.) セキュアな環境における生成AIの校務利用の実証研究事業

#### 事業概要

教職員の働き方改革の観点では、繁忙期を含む1年間を通しての生成AIの活用や教育委員会が主導する校務での生成AIの活用を促進する必要がある。児童生徒の個人情報等が適切に扱われるセキュアな環境下において、ダッシュボード等のツールとの連携の検討も含め、校務で生成AIを活用する実証研究を行う。

#### 想定成果

- セキュアな環境における実践例を創出し、全国レベルで校務における生成AIの活用を推進
- 生成AIを含む教育現場でのICT活用の実態に応じた「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」の見直しを実施

#### 事業スキーム



### c.) 学びの充実など教育課題の解決に向けた教育分野特化の生成AIの実証研究事業

#### 事業概要

多言語対応が必要な外国にルーツを持つ子供・保護者への対応、一人一人に合った個別最適な学習の提供など、教育分野の特定の課題に対し生成AIを活用した課題解決の可能性を検証する実証研究を行う。

#### 想定成果

- 既存の対応方法よりも効率的かつ効果的な生成AIモデル・サービスの創出
- 特定の教育課題に対応した生成AIの活用方法をバックキャストし、生成AIの活用方法や課題解決の可能性を整理

#### 事業スキーム



# 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・ 教育データの利活用推進

令和7年度要求・要望額  
(前年度予算額)

2億円  
1億円)



文部科学省

「GIGAスクール構想」により1人1台端末の活用が進み、AI含むデジタル技術の進展が社会に急速に普及する中、目指すべき次世代の学校・教育現場を見据えた上で、**先端技術や教育データの効果的な利活用を推進するための実証事業および調査研究**を行う。

## (1) 先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業

- **学校が抱える教育課題の解決に向けて**、1人1台端末環境とクラウド環境、デジタル教科書の導入を前提とした上で、例えば、センシング（画像認識や音声認識）、メタバース・AR（拡張現実）・VR（仮想現実）などの**先端技術の利活用について、実証研究**を実施。
- 検証する教育課題：不登校×メタバース、学校安全×AI、等

■ AR（拡張現実）



## (2) 先端技術の中核に据えた新たな学校（Super DX School）の設置・運営に関する実証事業

- Society5.0時代の到来など社会構造の変化や技術革新の動向を踏まえ、**「先端技術」の活用を前提とした教育方法や学校経営に取り組む新たな学校（Super DX-School）の新設**に関する実証・検証を実施。  
※令和5年度からの3年間事業。

■ VR（仮想現実）



## (3) 実証事例を踏まえた先端技術の活用方法、デジタル教材・デジタルコンテンツの利活用の在り方に関する調査研究

- (1) (2) の実証団体の取組状況を調査・分析し、利活用事例の普及に向けた検討を実施。
- これに加え、先端技術を利用したデジタル教材・デジタルコンテンツの動向や学校現場における取扱い等に関する調査・分析を実施し、教育データの利活用の促進に向けたデジタル教材・デジタルコンテンツ及びデータ流通の今後の在り方を検討。

委託先	(1) 学校設置者、民間事業者、研究機関等 (2) 学校設置者 (3) 民間事業者、研究機関等	対象経費	(1) 最先端技術の利活用に関する実証等に必要経費 (2) 実装段階にある先端技術の中核に据えた学校新設に必要な経費 (3) 先端技術の活用状況や技術動向の調査研究に必要な経費
単価	(1) 2,500万円 (2) 1,400万円 (3) 7,000万円	箇所数・期間	(1) 4箇所、1年間 (2) 1箇所、3年間※R7は3年目 (3) 1箇所、1年間

## 事業内容

教育に利用される映像等の教育用コンテンツ及び教育用デジタルコンテンツについて、教育上価値が高く、学校教育及び社会教育に広く利用されることが適当と認められるものを選定し、広く一般に普及・奨励を図る。

## 審査体制等

### ◎ 審査体制

申請作品については、有識者による審査会が、教育映像等審査規程に定める審査基準に照らして審査実施し、教育上価値が高いと認められた作品を「文部科学省選定」又は「文部科学省特別選定」（特に優れたもの）として選定。最終的には、文部科学大臣が選定の可否を決定。

### ◎ 審査対象

審査対象は映画、DVD等の映像教材、紙芝居及び教育デジタルコンテンツ。

### ◎ 申請作品の対象別、教科別の分類

学校教育教材・・・幼稚園、小学校（低、中、高学年）、中学校、高等学校向き  
社会教育教材・・・幼児、少年、青年、成人向き  
一般劇映画等・・・幼児、少年、青年、成人向き、家庭向き

### ◎ 選定された作品について

「文部科学省選定」又は「文部科学省特別選定」となった作品については、毎月その題名・内容等をまとめた「選定一覧」を文部科学省ホームページに掲載。パンフレットなどに選定された旨の掲載を許可。

### ◎ 審査件数等について

(件数)

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
審査数	選定数	特選数	審査数	選定数	特選数	審査数	選定数	特選数	審査数	選定数	特選数
65	44	6	95	59	8	109	60	6	87	49	6

## 審査の流れ

申請



審査会（有識者）



大臣の決定



選定 又は  
特別選定

# 3




(参考)  
文部科学省の伴走支援

# 「GIGA StuDX 推進チーム」による活動について

令和6年4月現在


文部科学省において、GIGAスクール構想が整備から活用のフェーズへと移行する中、1人1台端末、通信ネットワーク等の学校ICT環境を活用し、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実など教育の質の向上を推進するため、令和2年12月に「**GIGA StuDX※ 推進チーム**」を設置し、**全国の教育委員会・学校等に対して、ICTを活用した学習指導等の支援活動を展開**しています。

### GIGA StuDX 推進チーム

- 
 ■ 全国から**12名**の教師を配置し、**地域別、教科別、OS別に担当**
- 
 ■ **担当地域の教育委員会等と協働のためのネットワーク**を構築し、緊密にやり取りをしながら、教育委員会・学校等の協働・自走を支援
- 
 ■ **学校現場の悩みや課題**などを汲み取り、文部科学省の政策に反映
- 事務局は、初等中等教育局**学校デジタル化プロジェクトチーム**、初等中等教育企画課、教育課程課、学校情報基盤・教材課


### GIGA StuDX 推進チームの活動

#### ネットワークの構築



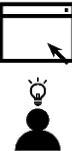
教育委員会等と緊密なやり取りを行い、全国の教育現場の最新の状況を把握、整理・分析しながら支援

#### オンラインを活用した協働




全国の教育委員会等の担当者向けオンライン連絡会議の実施や市町村の担当者向けオンライン相談会に対する開催支援等

#### StuDX Styleからの情報発信



特設ホームページ「StuDX Style」で「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる活用事例や教科等のICT活用事例を随時掲載

#### メールマガジンの配信



「GIGA StuDXメールマガジン」として、教職員や教育委員会のICT担当者等に事例や各地の取組等の最新情報を定期配信  
(R6.3現在 約28,700部)

(注) 「GIGA StuDX」とは、GIGAスクール構想の浸透による学びのDX（デジタル トランスフォーメーション）と学校の教育活動におけるICT利活用の促進のためのExchange（情報交換）を掛け合わせた造語です。



ギガ

スタディーエックス

通称 ギガスタチーム

# 「GIGA StuDX 推進チーム」が



## GIGA StuDX 推進チームとは？

全国各地から配置された**12名**の教師がチームとなり、**特設ウェブサイト「StuDX Style」**からの**情報発信**や、**メルマガの配信**、**教育委員会や学校現場の悩みや課題**などに**応じた研修等の伴走支援**を行っています。

## 研修のお手伝いをします！

令和2年12月に文部科学省に設置された「GIGA StuDX 推進チーム」では、教育委員会や学校現場の悩みや課題の解決に向けた伴走支援として、**対面/オンラインでの研修**をお手伝いしています。

### 豊富な研修実績！

令和6年3月現在

教育委員会主催の先生方や指導主事向けの研修や、GIGAスクール構想に関連する協議会等における情報提供など、全国の自治体から依頼をいただいています！

R5 研修実績

# 130回！

- 都道府県 61回
- 学校 13回
- 市区町村 44回
- その他 12回

※校内研修のお手伝いもできますので、お気軽にご相談ください。

全国各地の授業等における活用事例を教えてください！

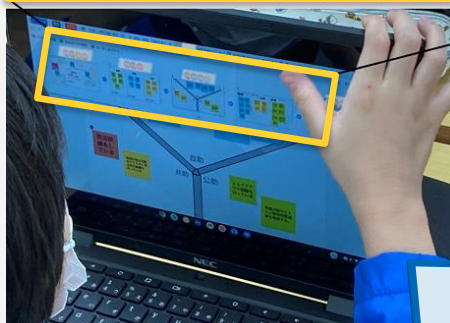
個別最適な学びと協働的な学びの実現とは？

クラウドを活用した演習をお願いしたい！

ご相談に応じて対応します！

### 研修メニュー例

- 1 GIGAスクール構想の趣旨説明
- 2 今、求められる教育についての説明
- 3 授業等における活用例紹介
- 4 校務や研修等における活用例紹介
- 5 クラウドを活用した演習
- 6 最新の参考情報等の紹介 など



「1人1シート」を相互参照



研修のご依頼は電話、メールまたは右の相談フォームで！

お問合せ先

文部科学省初等中等教育局 GIGA StuDX推進チーム

TEL 03-5253-4111 (内線4039)

E-mail [gigastudx@mext.go.jp](mailto:gigastudx@mext.go.jp)

相談フォーム



ICT活用に関する最新情報が満載の特設サイト



はこちらから！



# 特設ウェブサイト「StuDX Style」について

特設ウェブサイト「StuDX Style」では、1人1台端末の更なる利活用の促進に向けて、全国の学校や自治体から提供いただいた端末の活用方法に関する優良事例等を数多く紹介しています。

具体的には、①活用のはじめの一歩となる「慣れる」「つながる」活用事例 ②各教科等での活用事例 ③STEAM教育等の教科等横断的な学習での事例があります。

スタディーエックス スタイル  
StuDX Style  
GIGAスクール構想を浸透させ 学びを豊かに変革していくカタチ

“すぐにでも” “どの教科でも”  
“誰でも”活かせる1人1台端末の活用シーン

慣れる  
つながる  
活用

各教科等  
での活用

STEAM教育等の  
教科等横断的な  
学習

教師と子供が  
つながる

子供同士が  
つながる

学校と家庭が  
つながる

職員同士で  
つながる

GIGAに慣れる（文房具や備品として扱えるようにする）

### 各教科等での活用事例

各教科等の指導における1人1台端末の活用事例について小学校・中学校・高等学校の各教科等のポイントや、各教科等の特質を踏まえた活用事例を紹介しています。

小学校				中学校			
国語	社会	算数	理科	国語	社会	数学	理科
英語	音楽	総合的な学習の時間	道徳	音楽	体育	保健体育	総合・家庭
体育	外国語学習の時間	職業体験等の時間	道徳教育等の時間	外国語	職業体験等の時間	道徳教育等の時間	特別活動
特別活動							
特別支援教育				高等学校			
特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	国語	数学	公民	英語
国語	英語	道徳	特別活動	理科	音楽	体育	外国語
道徳	特別活動	特別活動	特別活動	美術	情報	道徳教育等の時間	特別活動

### STEAM教育等の教科等横断的な学習の取組事例

各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進している自治体や学校の取組事例を紹介しています。

### GIGAに慣れる活用事例

学習環境づくり等の取り組みやすい事例や、パスワード指導やルールづくり等の適切で安全な端末活用の事例などを中心に、1人1台端末の活用に取り組み始める先生方へのヒントとして紹介しています。

### 「つながる」活用事例

「教師と子供がつながる」「子供同士がつながる」「学校と家庭がつながる」「職員同士でつながる」について、授業等での活用のヒントが欲しい先生に向けての活用事例を紹介しています。

### 各OS事業者との連携

各OS事業者と連携し、StuDX Styleの事例の使い方などを紹介しています。

### 特集ページ

StuDX Styleを活用したミニ研修プランや、先進的に取り組んでいる自治体の研修情報やコンテンツ情報などを紹介しています。

# "すぐにでも" "どの教科でも" "誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン（例）

StuDX Style掲載の事例から考えられる学校や家庭における1人1台端末を活用した1日の流れの一例



※各事例をクリックするとStuDX Styleの事例ページにアクセスできます。 その他の事例はこちら URL : <https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

# 「1コマの授業の流れ」を意識した1人1台端末の活用シーン（例）

StuDX Style掲載の事例から考えられる学校での1人1台端末を活用した1コマの授業の流れ

導入

展開

終末

めあて



教師がプレゼンテーションソフトで作成した学習カードのひな型を配信

メールを受信したらプレゼンテーションソフトを開き、めあてや学習内容を確認

個人



デジタル付箋に思い付く言葉をたくさん書き出す

付箋を並び替えて仲間分け

グループごとに名前を付けて情報を整理

ペア・グループ



教師が「学習のまとめ」用のプレゼンテーションのひな型を配信

隣の児童生徒とペアになって共同編集

完成後はグループをつくり他の考えを見合う

まとめ

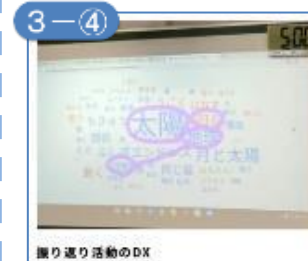


デジタルホワイトボードソフトに自分の考えを入力

クラス全員と効率的に考えを共有

他の児童生徒の考えに触れる中で、自らの考えを深めたり広げたりする

振り返り



アンケート機能を活用し振り返りの記述を提出

全員の回答が瞬時に共有

教師による即時評価

ICT端末について、授業における活用シーンに着目して整理すると、特定の教科や単元の内容に関わらず、汎用的かつ日常的に活用することができます。児童生徒が日常的にICT端末を活用することで、情報活用能力の育成にもつながります。

あくまで一例であり、単元や題材のまとまりの中で、各教科等の特質を踏まえて1コマを位置づけることも重要です。

# 「STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進」について

文部科学省では、STEAMの各分野が複雑に関係する現代社会に生きる市民、新たな価値を創造し社会の創り手となる人材として必要な資質・能力の育成に向け、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

**STEAM教育等の教科等横断的な学習**

**STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進**

文部科学省では、STEAMの各分野が複雑に関係する現代社会に生きる市民、新たな価値を創造し社会の創り手となる人材として必要な資質・能力の育成に向け、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

**関係ウェブサイト等**

- スーパーサイエンスハイスクール (SSH) ①
- スーパーグローバルハイスクール (SGSH) ②
- ワールド・ワイド・ラーニング (WWL) コンソーシアム構築支援事業③
- 地域との協働による高等学校教育改革の推進
- スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH)
- グローバルサイエンスキャンパス (GSC) ④

## STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進

### STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進について

AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められています。

文部科学省では、STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

**学校教育におけるSTEAM教育等の教科等横断的な学習の推進**

各教科等での学習 → 教科等横断的な学習 → STEAM教育等の教科等横断的な学習

文部科学省では、STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

※文部科学省の取組等については、こちら(STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進について (PDF:1664KB))をご覧ください(PDFファイルが開きます)  
 ※画像をクリックしてもPDFファイルを見ることができます。

■ [こちら\(STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進について \(PDF:1664KB\)\)](#) (PDF:1.7MB)

### 中央教育審議会関係資料

- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(令和3年1月26日中央教育審議会)
- 教育課程部会における審議のまとめ(令和3年1月25日教育課程部会)
- 学習指導要領の改訂の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料
- 教育課程部会(第112回) 配付資料(令和元年9月4日教育課程部会)
- 教育課程部会(第120回) 配付資料(令和2年9月24日教育課程部会)
- 教育課程部会(第125回) 配付資料(令和3年7月15日教育課程部会)

**STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進：**  
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index3.html>




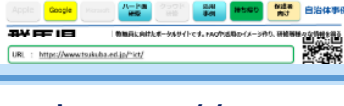
## 自治体の事例紹介

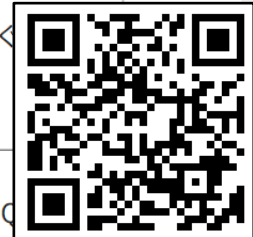
GIGAスクール構想に関わるみなさんへ、自治体の事例を紹介します。

自治体の研修情報・コンテンツ情報を紹介します。ウェブサイトへのリンクも掲載しています。  
※画像をクリックすると拡大表示されます。（令和4年2月4日更新）

なお、特設ウェブサイト「StuDX Style」では他にもICT端末の活用事例を掲載しています。是非ご参照ください。

- StuDX Style「慣れるつながる活用」ページ  
▼URL：<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>
- 「自宅等でのオンラインを活用した学習指導」ページ  
▼URL：<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/5.html>

<p>茨城県 つくば市</p>	 <p>つくば市</p> <p>つくば市の学校ICT教育に関する情報をご紹介します。本ページはつくば市立の学校ICT教育に関する情報（実践事例、活用事例、研修情報等）を掲載しております。また、つくば市立の学校ICT教育に関するお問い合わせ先も掲載しております。</p> <p>URL：<a href="https://www.tsukuba.ed.jp/ict/">https://www.tsukuba.ed.jp/ict/</a></p>	<p>学校ICT教育に関する資料等が掲載されています。「運用の手引き」や「ICT教育活用実践事例集」「持ち帰りの手引き」「オンライン学習の手引き」等がPDFで示されており、すぐ参考することができます。</p>
	 <p>つくば市</p> <p>つくば市の学校ICT教育に関する情報をご紹介します。本ページはつくば市立の学校ICT教育に関する情報（実践事例、活用事例、研修情報等）を掲載しております。また、つくば市立の学校ICT教育に関するお問い合わせ先も掲載しております。</p> <p>URL：<a href="https://www.tsukuba.ed.jp/ict/">https://www.tsukuba.ed.jp/ict/</a></p>	<p>教職員に向けたポータルサイトです。FAQコーナーも掲載されています。</p>



StuDX Styleへのアクセス先：<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/2.html>

# 「GIGA StuDX メールマガジン」の配信について

文部科学省では、GIGAスクール構想の下での学習指導における1人1台端末の活用について、情報を求める全ての人々に広くタイムリーに情報提供を図るための「GIGA StuDXメールマガジン」を配信しています。

学校はもとより教職員1人1人の皆様からのご登録も可能です。既に相当数の教職員の皆様からご登録いただいています。

配信予定内容：StuDX Styleの最新情報、活用事例や対応事例 等

## 登録方法



### 登録方法 1

(QRコードから登録する)



QRコードを読み取り、文部科学省のサイトから必要事項を入力の上、登録をお願いします。

### 登録方法 2

(ウェブサイトから登録する)



STEP 1 「文部科学省 メルマガ」で検索

STEP 2 GIGA StuDXメールマガジンの「新規登録」をクリック

GIGA StuDXメールマガジン (不定期配信) (新刊: 令和3年5月31日)

文部科学省では、GIGAスクール構想推進に係る情報、活用事例や対応事例等について、情報を求める全ての学校設置者や学校はもとより、教職一人一人、保護者や地域の人々にも広くタイムリーに情報提供を図るためメルマガを配信しています。本メールマガジンでは、GIGAスクール構想のもとでの学習指導等における1人1台端末の活用について、教員の効率化や子供の声等も含めて、学校で役に立つ情報をお届けしています。

【主な掲載内容】

- 特設ホームページ「StuDX Style」の更新のお知らせ
- 全国の自治体の事例紹介
- 文部科学省からのGIGAスクール構想関係のお役立ち情報 等

配信をご希望の方は新規登録へお進みください。

[新規登録](#) [登録解除](#)

STEP 3 必要事項を入力し「次へ」の後、「登録する」をクリック

GIGA StuDXメールマガジン (登録申込)

申込者情報入力

以下の項目に必要事項をご記入後、「次へ」ボタンをクリックしてください。  
※印の項目は入力必須項目です。必ずご記入ください。

E-mail  (メールアドレスは入力必須項目です。必ずご記入ください。)

性別  男性  女性  指定しない

年齢  (選択してください)

学校・職業  (選択してください)

居住地  (選択してください)

[次へ](#)

## 配信内容

【新着1】GIGA スクール構想 × 特別支援教育  
1人1台端末の効果的活用 (特別支援教育編)

昨年度公開直後から、大好評だった小・中・高等学校の「1人1台端末で学校変わる！」の動画シリーズに、「個別最適な学びを支える 特別支援教育編」が加わりました！

▼特別支援教育編はこちら (YouTube 動画)

【新着2】情報モラル教育啓発動画 (情報を確かめる)

情報モラル教育ポータルサイトに、ファクトチェックに関する小学校、中学校、高等学校向けの動画を新規公開しました。各種研修会等でご活用ください。情報モラル教育ポータルサイトには授業ですぐに使える資料や教職員研修で活用できる資料が多数掲載されています。

# 文部科学省YouTube/mextchannel

YouTube 検索 ログイン

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

**文部科学省/mextchannel**  
@mextchannel · チャンネル登録者数 11.3万人 · 5095本の動画  
文部科学省の公式チャンネルです。 >  
mext.go.jp、他3件のリンク  
チャンネル登録

ホーム 動画 ショート ライブ 再生リスト コミュニティ

今日の出来事 ▶ すべて再生

JAXAのH3ロケットと小型月着陸実証機 (SLIM) の開発... 2:42  
盛山大臣がNASAケネディ宇宙センター (米国・フロリ... 1:24  
盛山大臣がネルソンNASA長官と「与任ローハ」による月... 0:44  
「火山調査研究推進本部」看... 1:22  
令和5年度 (第74回) 芸術選... 1:31

**1人1台端末で学校が変わる！ ▶ すべて再生**

1人1台端末の効果的な活用... 16:12  
1人1台端末の効果的な活用... 2:26  
GIGAスクール構想 1人1台端末の日常的な活用... 18:40  
GIGAスクール構想 1人1台端末の日常的な活用... 21:44  
GIGAスクール構想 1人1台端末の日常的な活用... 20:38

【特別支援教育編】1人1台... 1.2万回視聴・1か月前  
【小中学校編】1人1台端... 3123回視聴・3か月前  
【高等学校編】1人1台端... 2万回視聴・1年前  
【中学校編】1人1台端... 3.4万回視聴・1年前  
【小学校編】1人1台端... 4.8万回視聴・1年前

【インタビュー】「GIGAスクール構想×〇〇」 ▶ すべて再生

GIGAスクール構想と... 15:04  
GIGAスクール構想... 4:12  
GIGAスクール構想... 1:58  
GIGAスクール構想... 9:59

【インタビュー】「GIGAス... 2.1万回視聴・1年前  
【インタビュー】「GIGAス... 1万回視聴・11か月前  
【インタビュー】「GIGAス... 1169回視聴・3か月前  
【インタビュー】「GIGAス... 4211回視聴・6か月前  
【インタビュー】「GIGAス... 7428回視聴・1年前

# 1人1台端末で

# 学校が変わる！

公開2週間で、  
2万回再生突破！

1人1台端末の効果的な活用  
～個別最適な学びを支える～  
**特別支援教育編**

特別支援教育編が追加されました！

1人1台端末が整備され、多くの学校で日常的な活用が定着してきました。端末の活用について、先生方と子供たちが試行錯誤を繰り返し、授業が変わってきた学校もあります。その様子を動画にまとめましたので、研修会等でご活用ください。

**小学校編**

**中学校編**

**高等学校編**

**【ダイジェスト版】小中学校編**



高等学校情報科に関する情報を随時お届けします！

# 高等学校情報科特設ページ

2023.6.



- 高等学校学習指導要領
- 高等学校学習指導要領解説
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (国立教育政策研究所)



授業担当者が活用できる**授業解説動画等** (ダウンロード可) を掲載。

**情報Ⅰの実践事例を紹介！**

情報処理学会 MOOC教材も無料公開！



**学習支援コンテンツも紹介！**

情報Ⅰ、情報Ⅱを学ぶ参考となる、動画教材、プログラミングの体験コンテンツ、データサイエンスの詳しい解説等を紹介しています。

学習指導要領

授業・研修用  
コンテンツ

実践事例

生徒用  
コンテンツ

体制の工夫

外部人材の活用

通知・事務連絡等

関係リンク集

様々なコンテンツ情報を紹介しています！

外部人材の円滑な活用や運用ができるよう、予算や人材の手配、授業の準備・実施、活用の改善等に関する内容を紹介しています。資料もダウンロードいただけます。

- 情報関係人材の活用促進にむけた**指導モデル及びカリキュラムの手引き**
- 免許保持教員による**複数校指導の手引き**



共通教科情報科の指導の充実に向けた

**通知等を掲載**しています。高校情報科に関する**チラシ**もこちらからダウンロードいただけますので、情報教育の推進にお役立てください。

NEW

**授業解説動画**コンテンツをまとめたサイトを新しく開設！



登録はコチラ

高等学校情報科に関する内容が随時更新！指導の充実に活用できます！



高校 情報科 検索

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm)

GIGAスクール構想の実現



学習支援コンテンツポータルサイト (子供の学び応援サイト)



GIGA StuDX  
メールマガジン



登録はコチラ

GIGAメールマガでも、情報科に関する情報入手できます！

# 情報I授業解説動画

高等学校情報科に関する内容はこちら



高校 情報科 🔍

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm)

体験を通して学べる!

1本約15分程度!

優れた指導力を有する教師による  
授業解説動画等×21本



情報!

情報デザインの要!  
情報の構造化



梅沢 崇

情報!

センサーライト  
を作ろう!



三井 栄慶

情報!

情報デザインの  
極意!  
「具体化」と「抽象化」



千葉 緑

情報!

意外と簡単!?  
自分でできる  
ネットワークの構成



小松 一智

計 21 本

- 梅沢 崇
- 鎌田 高德
- 小松 一智
- 須藤 祥代
- 武善 紀之
- 田崎 丈晴
- 千葉 緑
- 登本 洋子
- 三井 栄慶
- 村井 純

(敬称略 五十音順)

動画をさらに  
解説した  
研修用動画も掲載!



- 情報Iを進める上での、スムーズな授業展開のためのヒント
- 情報Iにおける「主体的・対話的で深い学び」を行うためのヒント
- 3学期に向けたデータサイエンス概論
- データの種類に応じた分析・教育実践事例
- 情報通信ネットワークの仕組みと運用
- 生徒がプログラミングする際の留意点
- アルゴリズムの比較から効率的なアルゴリズムの理解の仕方
- 情報をデザインすることの意義、デザインするための一連の進め方
- 情報・メディアと問題解決の進め方
- 「情報II」に向けた情報教育概論

## SPECIAL

村井純慶応義塾大学教授

「楽しいデジタル社会を作ろう!」  
～君たちはなぜ今、情報を学ぶのか～



村井 純

登本洋子学芸大准教授

「情報!ってなんだろう?」  
～情報科・情報Iの魅力～



登本 洋子

教科調査官×情報科教師



須藤 祥代

田崎 丈晴

NEW

コンテンツを  
まとめて掲載




高等学校情報科に関するメルマガ登録はこちら

高等学校情報科に関する特設ページはこちら



# 情報II授業解説動画

高等学校情報科に関する内容はこちら



高校 情報科



[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm)

体験を通して学べる

1本約15分程度

優れた指導力を有する教師による  
授業解説動画等×19本



情報II  
重回帰分析を用いた予測  
春日井 優

情報II  
Bit Arrow の使い方①  
会員アカウント等の登録  
須藤 祥代

情報II  
情報システムってなに？  
鎌田 高德 小松 一智

情報II  
Web制作  
須藤 祥代 鎌田 高德  
白井 詩沙香

計 19 本

- 春日井 優
- 鎌田 高德
- 上平 崇仁
- 小松 一智
- 白井 詩沙香
- 須藤 祥代
- 武善 紀之
- 田崎 文晴
- 長 慎也
- 遠山 紗矢香
- 蓮池 隆
- 登本 洋子
- 三井 栄慶

(敬称略 五十音順)

動画をさらに  
解説した  
研修用動画も掲載！



- 統計的手法によるデータ分析
- 機械学習によるデータ分析
- 情報システムを作ってみよう
- 情報システムを改造してみよう
- 情報IIにおける「コンテンツ」の題材や内容を どう解釈するか
- 豊かな学びを実現する情報IIの探究
- 情報デザインに配慮したコンテンツを制作してみよう
- 創造性を育む情報IIの探究

SPECIAL !!

情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

情報IIにおける探究とは  
探究の準備から発表 取り組むとゴール  
探究の進め方・取り組む方

大学教員×情報科教師

コミュニケーションとコンテンツ  
情報とデータサイエンス  
情報システムとプログラミング

NEW

コンテンツを  
まとめて掲載



《 高等学校情報科に関するメルマガ登録はこちら 》

《 高等学校情報科に関する特設ページはこちら 》



# テレビ 高校講座

高校生も先生も、誰もが待っていた情報教育番組誕生！



**スタート！令和5年春！**  
**Eテレ金曜日10:00-10:20(隔週)**  
**放送中**

**番組HPでいつでもどこでもチェック！**

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/jouhou1/>

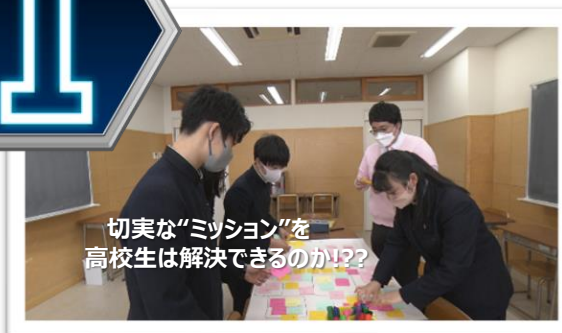
**文科省教科調査官が全面協力**



**出演：**野田クリスタル(マチカルラブリー)  
 村上(マチカルラブリー)  
 正源司陽子(日向坂46四期生)

## 情報I

Informatics



切実な“ミッション”を  
 高校生は解決できるのか？

毎回のミッションは高校生に切実な問題ばかり。チームを組んで、試行錯誤しながら解決することで、高校生たちは「情報のチカラ」を身に付けていく。始まったばかりの「情報I」の学び方、教え方を、楽しく分かりやすく伝えています。

情報I  
 Informatics

**高校生の悩みを解決するゲームを創ろう！with野田クリスタル**

高校生の悩みと、それを解決するゲームのアイデアを大募集。その中から、野田クリスタルが「創ってみたい」と思う内容を、自らのゲーム愛を語りつつ実際にプログラミング。Pythonを学びたいという野田さんと一緒に、プログラミングをイチから学び、楽しいゲームを自作できるようになろう～という1分ほどのミニコーナー。(監修：ゲームクリエイター廣瀬豪)



- ▶情報活用能力（情報モラルを含む）を、言語能力と同様に「**学習の基盤となる資質・能力**」と位置付け
- ▶**情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度**



- ・情報発信による他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと
- ・犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること
- ・コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること
- ・将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすること など

- ・自他の権利を尊重し、**ICT端末等を適切に扱う責任**を児童生徒が自覚できるよう指導を充実
- ・課題に対処するために**児童生徒が自分で考え、解決**できるように指導を工夫

## 1 情報モラルポータルサイト <https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/index.html>

児童生徒、教員、保護者を対象とした情報モラルに関するコンテンツをまとめたサイト



### (1) 動画コンテンツ・啓発資料

- ▶これまでに27本の動画を作成（R5は4本追加）
- ▶「NHK for school」「経済産業省 STEAM Library」などの動画も掲載
- ▶R5年度は**ファクトチェック**をテーマ

#### 【動画カテゴリ】

- タブレットを初めて使う
- インターネットを活用する
- 情報を発信する
- オンラインで交流する
- 作品を作る
- マナーを守って使う
- 健康に気を付けて使う
- SNSなどを使う

#### 【啓発資料】



#### 【動画教材】

- パスワードを管理する 動画教材11 小5～中1
- ネット詐欺について考える 動画教材4 中2～高3

### (2) 問題コンテンツ

- ▶情報モラル学習サイト～スマホ・タブレットやネットを上手に活用できるかな？～  
<https://www.mext.go.jp/moral/>



- ▶**活用場面ごと**に様々な問題に取り組める
- ▶動画・写真・イラストで、**実践的**に学べる
- ▶学びを**振り返り**、日常に活かせる

### (3) 授業実践・事例コンテンツ

- ▶情報の拡散に関して考える（中学対象）
- ▶検索した情報の真偽を考える（小学高学年）
- ▶動画内の情報の真偽を考える（小学低学年）
- ▶生成AIの上手な活用を探究的に考える（高校）



### (4) 他省庁のリンク等

- ▶情報モラル教育関連サイトの情報を掲載  
 (文化庁・内閣府・警察庁・消費者庁・総務省・法務省)

## 2 情報モラル教育指導者セミナー

教員等を対象の実践等を含めた  
**オンラインセミナー・アーカイブ動画を配信**

#### 【令和5年度実績】

- ・総参加者数 2,855名
- ・アーカイブ視聴数 6,490回

- 第1回 情報活用能力としての情報モラル教育をどう進めるか  
～生成AIや闇バイトなどの新しい情報技術やリスクとの向きあい方～
- 第2回 偽情報や犯罪被害につながる情報を怪しいと判断できる力の育成  
～闇バイトの実態紹介と授業事例～
- 第3回 ニセ・誤情報の実態とファクトチェックの仕方  
～生成AI等の新たなサービスに適切に対応できるようにするために～
- 第4回 家庭と連携した情報モラル教育をどう進めるか  
～AI時代における家庭での情報モラル・ファクトチェック～



## (1) 動画コンテンツ・啓発資料

タブレットを初めて使う

**教材**

情報化社会の新たな問題を考える動画教材（教材）※端末を用いて家庭学習を行う（小学1年生～小学4年生）

掲載元：文部科学省

学校における情報モラルに関する指導の一層の充実を図るため、先述した新たな問題について、教員が指導する際に役立つ児童生徒向けの動画教材と手引書を作成しました。

**コンテンツ内容：**  
GIGAスクール構想により整備された学習用端末に関して、学校及家庭での適切な使い方について子供たち自身に考えさせる必要があります。

本教材では、家庭内での端末の使い方について、これまでの自身の使い方を振り返りながら端末を丁寧に扱うことに関する注意事項、怪しいウェブサイトの特徴について考える内容となっています。

保護者も一緒に考えられるコンテンツとなり、家庭での宿題や保護者説明にご活用ください。

**教材**

情報化社会の新たな問題を考える動画教材（教材）※タブレットを活用した学習活動について考えよう（小5～中1）

掲載元：文部科学省

学校における情報モラルに関する指導の一層の充実を図るため、先述した新たな問題について、教員が指導する際に役立つ児童生徒向けの動画教材と手引書を作成しました。

**コンテンツ内容：**  
学習用端末を使用する場合には、「学習の目的」で取り扱うこととされています。本教材では、「学習の目的」や「適切なチャットの利用」について考えさせることで、トラブルを防ぎながら効果的に活用できる力を育てたい。

**指導の手引き**

**教材**

情報化社会の新たな問題を考える動画教材（教材）※タブレットの上手な使い方（小学1年生～小学4年生）

掲載元：文部科学省

学校における情報モラルに関する指導の一層の充実を図るため、多くの学校で1人1台端末や高速大容量の通信環境が整備されるが、その際に学校や家庭でのタブレットの適切な使い方やIDやパスワードの適切な管理について子供たち自身に考えさせる必要がある。本教材では、学校や家庭での上手なタブレットの使い方について、これまでの自身の使い方を振り返りながら考えさせる。

**指導の手引き**

## (2) 問題コンテンツ



「情報モラル学習サイト」  
～スマホ・タブレットやネットを上手に活用できるかな？～  
<https://www.mext.go.jp/moral/>

## (3) 授業実践・活用事例コンテンツ

事例一覧

**情報モラル啓発ポスターの作成**  
校種・学年：小学校低学年・小学校中学年・小学校高学年・中学校・高等学校

**情報モラル～春休み中の携帯ルールを決めよう～**  
校種・学年：中学校1年生

**「SNS東京ノート」の活用**  
校種・学年：小学校 全学年

**情報の真偽について考える**  
校種・学年：中学生以上

**ネットいじめについて考える**  
校種・学年：中学生以上

**端末の使いすぎについて考える**  
校種・学年：小学校高学年

**指導の手引き**

# 情報モラル-learning コンテンツ一覧 (令和5年時点)

情報モラルに関する喫緊の課題に幅広く対応しており、**文部科学省がこれまで作成した教材と関連しています。子供たちのスマホ・タブレットやネットの活用場面に応じて学習することが可能**です。各コンテンツには、推奨学年を設定しています（小1～小4、小5～中1、中2～高3など）。

タブレットを初めて使う	インターネットを活用する	情報を発信する	オンラインで交流する	作品を作る	マナーを守って使う	健康に気を付けて使う	SNSなどを使う
<b>学習用タブレットを上手に使う</b>  動画教材19 小1～小4	<b>学習用タブレットを学習活動に使う</b>  動画教材21 小5～中1	<b>パスワードを管理する</b>  動画教材11 小5～中1	<b>大切な情報を守る</b>  動画教材12 中2～高3	<b>個人情報について考える</b>  動画教材3 小5～中1			
<b>ネット交流について考える</b>  動画教材5 小5～中1	<b>ネット詐欺について考える</b>  動画教材4 中2～高3	<b>SNSを上手に使う</b>  動画教材9 小5～中1	<b>SNSでどう伝えるか考える</b>  動画教材20 小5～中1	<b>写真や動画を上手に使う</b>  動画教材6 中2～高3			
<b>情報の公開について考える</b>  動画教材8 中2～高3	<b>SNSの影響を考える</b>  動画教材10 中2～高3	<b>相手のことを思いやる</b>  動画教材7 小5～中1	<b>上手にコミュニケーションをとる</b>  動画教材13 小5～中1	<b>SNSで知り合った人とやりとりする</b>  動画教材15 小5～中1			
<b>立場の違う相手を思いやる</b>  動画教材14 中2～高3	<b>著作物を上手に扱う</b>  動画教材18 小5～中1	<b>使いすぎについて考える</b>  動画教材16 小1～小4	<b>利用マナーについて考える</b>  動画教材17 小1～小4	<b>ゲーム依存について考える</b>  動画教材1 小5～中1			
<b>ネット依存について考える</b>  動画教材2 中2～高3	<b>健康に気を付けて使う</b>  小1～高3	<b>SNSなどを使う</b>  小学校低学年	<b>SNSなどを使う</b>  小学校高学年・中学生	<b>SNSなどを使う</b>  高校生			

## ■教員の皆様に活用いただく方法

「**情報モラル-learningコンテンツ**」は、子供たちが家庭学習などにおいて、情報モラルについて自ら学習する際に役立てることを想定し、制作しております。1コンテンツの学習時間は約5～10分となっており、いつでもどこでも、パソコン・タブレット・スマートフォンなどから学習が可能です。本コンテンツは、授業の中などで活用いただくことも可能です。情報モラルに関する授業の**導入・まとめの場面**や、**予習・復習**において活用いただくのと合わせて、コンテンツを学習してみてどのように感じたか、**子供たち同士で話し合う機会**や、**先生から説明する機会**を設けることで、より深い学びに繋がります。文部科学省が作成した、動画教材や手引書（下記ホームページ参照）と合わせて、是非ご活用ください。

※「**情報モラル教育の充実**」 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.htm)



# 学校のICT環境整備に係る地方財政措置（令和6年度）

- 平成30年に「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（平成30年度～令和4年度）」を策定し、単年度1,805億円の地方財政措置を講じてきたが、新たなICT環境整備方針の策定について、令和7年度に向けて検討を進めることとし、当該計画期間を令和6年度まで2年間延長
- 令和5年度補正予算における、GIGAスクール構想加速化基金の創設に伴い、令和6年度については、基金を活用して自治体が行う児童生徒1人1台端末の整備に必要な経費について、**単年度373億円を地方財政措置** その他、上記を除く**学校ICT環境整備に必要な経費**について、**単年度1,432億円を地方財政措置**

## GIGAスクール構想加速化基金（373億円）

- **学習者用端末** 基金を活用した整備（補助率2/3）の地方負担分（義務教育段階）

## 教育のICT化に向けた環境整備計画（1,432億円）

### 計画において措置されているICT環境の水準

- **学習者用端末** 3クラス分に1クラス分程度整備（高校段階）
- **指導者用端末** 授業を担当する教師1人1台
- **大型提示装置・実物投影機** 100%整備  
各普通教室1台、特別教室用として6台  
（実物投影機は、整備実態を踏まえ、小学校及び特別支援学校に整備）
- **インターネット及び無線LAN** 100%整備
- **統合型校務支援システム** 100%整備
- **ICT支援員** 4校に1人配置
- 上記のほか、学習用ツール<sup>(※)</sup>、予備用学習者用端末、充電保管庫、学習用サーバ、校務用サーバ、校務用端末やセキュリティに関するソフトウェアについても整備

(※) ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどをはじめとする各教科等の学習活動に共通に必要なソフトウェア

